

広島女学院大学

# 児童教育学科研究紀要

—— 第 8 号 ——

幼児期の運動遊びに関する研究……………	紀 村 修 一	1
—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「健康」からみた検討—		
臨床心理学関連科目の授業実践について……………	山 下 京 子	15
小学校教員養成大学における「学級づくり」に関する授業の検討……	森 保 尚 美	31
—一個の学びと協働の学びに着目して—		
不朽のデザイン市松模様……………	三 梡 正 典	41
—NHKBS プレミアム「美の壺」より—		

2 0 2 1 年 9 月

広島女学院大学

Hiroshima Jogakuin University

# Journal of the Department of Child Education

— No.8 —

A Study on Physical Activity in Early Childhood .....	Shuichi KIMURA	1
Class Practice of Subjects Related to Clinical Psychology .....	Kyoko YAMASHITA	15
Consideration of Classes related to Class Management at a Teacher Training University: Focusing on Individual and Collaborative Learning .....	Naomi MORIYASU	31
Timeless Design Checkered Pattern .....	Masanori MIMASU	41
—From NHK BS Premium “Beauty Pot”—		

September 2021

Hiroshima Jogakuin University

## 幼児期の運動遊びに関する研究

—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「健康」からみた検討—

紀 村 修 一\*

(2021年8月16日 受理)

### A Study on Physical Activity in Early Childhood

Shuichi KIMURA\*

The purpose of this study is to gain knowledge about physical activity in early childhood based on early childhood education, actual situation of first grader and physical activity that I developed.

As a result of consideration about early childhood education and physical activity, we understood 3 points to in mind of physical activity. That is, easy rules, common purpose, and awareness of changes in mind and body. Physical activity that includes these will be useful for desirable growth for early childhood children.

**Keywords:** Physical activity 運動遊び, Early childhood children 幼児, Health 健康, Childhood cooperation 幼小連携

#### 1. はじめに

本研究では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や領域「健康」から、幼児期の運動遊びの要点を見出し、幼児期の終わりに接続する小学1年生に、質問紙調査を実施するとともに、筆者が開発した運動遊びを行い、その考察から幼児期の運動遊びについて知見を得ることを目的とする。

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活様式は大きな変化を余儀なくされた。これまで「あたりまえ」にできていたことに対して制限がかかり、誰もが、いつでも、どこでも「3密」の回避や「ソーシャルディスタンス」の確保などを意識しなければならなくなった。このことは、学校生活においても例外ではない。感染流行の早期終息や子どもたちの健康・安全を考え、全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校を一斉に臨時休校とする要請が国から出された<sup>1)</sup>。体育に関していえば、水泳学習<sup>2)</sup>や運動会<sup>3)</sup>の中止もしくは条件付きでの実施といった措置が講じられるなど、コロナ禍の今、子どもたちの学びの場を例年通り保障することさえ困難な状況となっている。

このような状況下では、これまで以上に、子どもたちの健康に対する興味・関心を高めることが重要になると考えた。そこで、幼児期を終えて間もない小学1年生の健康に対する認識を把握するため、『「けんこうなひと」』は、どんなひとだとおもいますか?』と小学1年生に尋ねた。すると、多くの子どもが、病気の症状がない元気な人であると回答した。この考え方は、毎日実施している「健康観察」が影響していると推測できる。毎朝の健康観察の時間において、子どもたちは、今の体の

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科講師

状態と通常の体の状態を比較し、元気である、もしくは、元気ではない（例えば、頭痛、腹痛、咳、微熱、けがなど）という二択から自己の体の状態を表現する。つまり、子どもは、健康状態を身体面から捉え、健康と病気を対極の関係として認識しているのである。一方で、小野（2020）は、健康状態を身体面だけでなく、子どもの心の中にある溢れる思いや、子どもを取り巻く人びとからの影響や他者・他児との関係といった精神面からも捉える必要性を指摘している<sup>4)</sup>。また、幼児期に着目すると、文部科学省（2018）は、「健康な幼児を育てることとは、単に身体を健康な状態に保つこと目指すことではなく、他者との信頼関係の下で情緒が安定し、その幼児なりの伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組めるようにすることである」<sup>5)</sup>と定義し、幼児と健康の望ましい関係性を示している。したがって、身体面と精神面の両側面から幼児の健康を捉え、育成することが重要であるといえる。

それでは、どのようにして幼児の健康を育むことができるか。一つの有効な方法として、運動遊びがある。いうまでもなく、運動遊びには、平衡性、敏捷性、協応性、巧緻性などの調整力や、走る、跳ぶ、投げるなどの運動能力<sup>6)</sup>といった身体面の育成が期待できる。加えて、櫻木（2020）は、運動遊びには社会性（自分以外の人と関わりをもつ能力）の発達を促す場面がたくさんあると述べ、例えば、我慢する、順番を守る、相手を思いやるといった子どもの行動を例に挙げている<sup>7)</sup>。つまり、運動遊びにより、精神面の育成も期待できるといえる。さらに、先に示した身体面の育成は、幼児期に著しく高まり、精神面は、幼児期から徐々に高まり始めるとされ<sup>8)</sup>、幼児期における運動遊びの重要性が理解できる。

そこで本研究では、幼児期の運動遊びに関して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「健康」からみた検討を行う。研究にあたってまず、幼児期における教育のあり方について整理する。具体的には、（１）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え、（２）領域「健康」の捉え、（３）幼児期を終えた小学１年生の実態調査、を行う。次に、これらの整理と先行研究を踏まえて幼児期の運動遊びの要点を見出し、幼児期の運動遊びの開発と授業実践を行う。最後に、授業実践の考察から幼児期後期の運動遊びに関する知見を得る。

## 2. 幼児期の教育

### （１）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿<sup>9)</sup>

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」から構成される五つの領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿である。幼稚園教育の教育水準を全国的に確保するための幼稚園教育要領が、平成29年３月31日に改訂され、平成30年度から実施された。今回の改訂では、幼稚園教育において育みたい資質・能力が明確化され、具体的に「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つが示された。さらに、以下の10項目を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明確にし、小学校教育との円滑な接続をねらっている（囲み線は筆者）。

#### （１）健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

## (2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

## (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

## (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

## (5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

## (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

## (7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

## (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

## (9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

#### (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

このように、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体化することで、幼稚園教諭や保育士等の保育・教育の方向性や評価の視点が明確となる。また、幼稚園教諭から小学校教諭に幼児の成長や幼児期の働き掛けの意図を伝えることで、幼小連携が円滑に進むという点でも、目安として具体的な姿を提示することによさを感じる。実際、一般的に小学校入学前には、幼稚園教諭と小学校教諭が対面して、口頭による引継ぎを行ったり、指導内容や具体的な支援、幼児の成長や課題が時系列に沿って記載された幼稚園幼児指導要録等による引継ぎを行ったりしている。小学校では、これらの情報を踏まえた学級編成や入学直後の指導計画の作成などを行い、幼児が安心して小学校生活を始めることができる工夫を行っている。したがって、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を、幼稚園と小学校をつなぐ1つの話題として重視することは、幼小連携を進める上で今後も大切になるといえる。

一方で、留意すべき点もある。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、5歳児後半に見られることを想定しているが、5歳児になって突然見られるのではなく、発達の段階に沿った指導が必要となる点、すべての幼児が一律に到達すべき目標ではない点や、個別に取り出されて指導されるものではない点である。保育者には望ましい環境構成の中で、仲間との遊びや生活を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られるようにする工夫が求められる。

#### (2) 領域「健康」の捉え<sup>10)</sup>

心身の健康に関する領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うために、以下のねらい及び内容で構成される。

##### 【ねらい】

- (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

##### 【内容】

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (3) 進んで戸外で遊ぶ。
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (5) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
- (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。
- (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排せつ泄などの生活に必要な活動を自分でする。
- (8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- (9) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

「ねらい」に示された文章の主語は、当然「幼児」である。そして、「明るく伸び伸びと」や「十分に」、「進んで」などの言葉から、幼児の主体性や充実感・満足感を意図することは容易に想像できる。したがって、保育者による一方的な押しつけではなく、幼児が自ら取り組みたくなる活動や、活動に没頭できる十分な時間設定が重要となる。

また、「内容」には、幼児が生活する上で必要となる健康に関する行動や態度が示されている。ちなみに、小学校体育科の保健領域では、健康と深く関わりのある生活の仕方として、運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔を挙げられており<sup>11)</sup>、指導内容が幼稚園と類似することが分かる。したがって、幼稚園と小学校では、健康に関しての系統的な指導が重要となる。

### (3) 幼児期を終えた小学1年生の実態調査

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中に、「(1) 健康な心と体」がある。「健康」は、幼児が日常的に見聞きしたり、読み書きで用いたりする身近な言葉である。特に、コロナ禍における現代社会では、感染症対策として子どもへ「3密」の回避や「ソーシャルディスタンス」の確保などを促すことも多く、健康への子どもの意識は高いと考えられる。その「健康」について、幼児期を終えた小学1年生がどのように認識しているかを把握するため、質問紙調査を行った。質問内容と結果は以下の通りである。(小学1年生27名に対して令和3年6月実施)

- |                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 「けんこう」は、たいせつなものだとおもいますか？<br/>はい ・ いいえ ・ わからない</p> <p>2. 「けんこうなひと」は、どんなひとだとおもいますか？</p> <p>3. 「けんこう」のために、あなたがしていることはなんですか？</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図1 質問内容

質問1については、「はい」が25名、「いいえ」が0名、「わからない」が2名という結果になった。このことから、子どもの多くが、健康は大切なものであると認識していることが明らかとなった。ただし、「わからない」と回答した2名(図2及び図3の整理番号22番と25番の子ども)はどちらも、「意味が分からない」と述べた。これは、健康という言葉が、視覚化することが難しい抽象的な言葉であることが原因であると考えられる。

質問2については、図2の結果となった。最も多い回答が「元気な(の)人」で19名、次いで、「病気の症状がない人(咳が出ない、風邪でない、熱がないなど)」で11名であった。この結果については、「1.はじめに」で検討した通りである。その他、運動や食事、清潔に関する回答もあり、領域「健康」との関連も見られた。

質問3については、子どもの回答を「(2) 領域「健康」の捉え」で取り上げた「運動」、「食事」、「休養及び睡眠」、「体の清潔」及び「その他」に分類し整理した(図3)。すると、多くの子どもが



「食事」、「休養及び睡眠」、「体の清潔」、「その他」に関する回答をした。一方で、「運動」に関する回答は7名で、他の4項目と比較すると明らかに少ない結果となった。このことから、健康のために運動をしている子どもが少ない、もしくは、健康のために運動をしている自覚がない子どもが多いことが明らかとなった。

整理 番号	「けんこうなひと」は、どんなひとだとおもいますか？
1	元気な人 咳の出ない人
2	風邪でない人 マスクをしている人 ゲームをしていない人
3	元気の人 3食（朝・昼・晩）ご飯を食べる人
4	咳が出ない人 ずっと生きられる人
5	元気な人 友達とよく遊ぶ人 おもしろい人 ご飯をいっぱい食べる人 好き嫌いをしない人
6	元気な人 手を洗っている人 よく食べる人
7	元気な人 水を飲む人
8	元気な人 手洗いをちゃんとする人 病気にならない人
9	元気な人 よく食べる人 よく遊ぶ人
10	元気な人 咳が出ない人 のどが痛くない人
11	元気な人 運動が得意な人 好き嫌いをしない人 手洗いうがいをきちんとする人
12	健康な人
13	元気な人 咳が出てない人 勉強をちゃんとしている人
14	元気な人 野菜をちゃんと食べる人
15	運動する人
16	元気な人 いつも運動している人
17	元気な人 野菜を全部食べられる人
18	元気な人（Iくん、Oくん）
19	元気な人 手を洗う人 明るい人
20	ゲームをやっている人（健康だからできる）
21	元気な人 運動をする人 好き嫌いがいない人 大事な物をもっていける人
22	咳が出ない人 ハンカチで手を拭く人
23	元気な人 運動する人
24	元気な人 風邪をひかない人
25	咳が出ない人
26	熱がない人
27	元気な人 のどが痛くない人

図2 質問2の回答（筆者が漢字・英語に変換）



幼児期の運動遊びに関する研究

整理 番号	「けんこう」のために、あなたがしていることはなんですか？				
	運動	食事	休養及び睡眠	体の清潔	その他
1		ごはんをよく食べる	よく寝る	石けんで手洗い、うがい、風呂	トイレ
2		ごはん（3食）	早寝早起き	ハンカチ、ティッシュ、爪、風呂	トイレ 水分
3	運動		早起き	石けんで手と頭と体を洗う	トイレ
4		ごはんをいっぱい食べる	早寝早起き		トイレ、マスク、歯磨き、太陽の光を浴びる
5		毎日ごはんを食べる			
6		ごはんを食べる	寝る	手を洗う、ハンカチ	トイレに行く、マスクをする
7			ちゃんと寝る	風呂に入る	トイレに行く、マスクをする、お茶を飲む
8	体操する	好き嫌いをしない、3食食べる	早寝早起きをする、寝る	手洗い、お風呂に入る、	服を着替える、歯を磨く、水やお茶を飲む、テレビを見すぎない、学校に来る、発表する
9			夜更かしをしない	手洗いをする	マスクをする、あさがおに水をあげる
10		ごはんを食べる	睡眠をとる	手を洗う、風呂に入る	歯磨きをする
11		ごはんの時間を決めて食べる（朝・昼・晩）	早寝早起きをする	手洗いうがいをやる、お風呂に入る、ハンカチ・ティッシュをポケットに入れる	歯磨きをする、汗をかいたら着替える（風邪をひくから）、飲み物を飲む、起きて目のごみをとる、鉛筆を削る
12		朝ごはんを食べる	夜寝る、朝起きる	手を洗う、風呂、ハンカチ・ティッシュを持って行く、爪を切る	小学校に行く
13		朝ごはん	早寝早起き	お風呂	トイレ、歯磨き、服を着替える（風邪をひくから）
14		3食食べる	寝る	手洗い、お風呂、ハンカチ・ティッシュをポケットに入れる、爪を切る	トイレ、歯を磨く、マスクをする、水やお茶をしっかりと飲む
15		朝・昼・晩ごはん	朝元気に学校に行くために寝る	手洗い、風呂	トイレ、歯磨き、水分、健康観察
16	運動、遊ぶ	給食	早寝早起き	手洗い、うがい、風呂、ハンカチ・ティッシュ	トイレ、マスク、服、飲み物、歯医者、勉強
17		ごはんを食べる、給食を食べる	夜になったら寝る	手を洗う、風呂へ行く、ティッシュやハンカチをそろえる、掃除をする	トイレへ行く、服を着替える、健康観察は大きな声で発表する、熱中症にならないようにする
18	体育をがんばる			手を洗う、ハンカチ・ティッシュ持ってくる、爪を切る	がんばって学校まで来る、元気に挨拶する
19	運動する	朝・昼・晩ごはんを食べる、残さず食べる		泡で手を洗う、お風呂に入る	トイレに行く、服を着る、水分をとる
20		昼・夜ごはんを食べる	早寝	風呂に入る、ティッシュ、	トイレに行く、髪を切る
21		ごはんを食べる	早く寝る、	手洗いを正しくやる	トイレに行く、汗をかいたら服を着替える、歯医者に行く、健康観察をする
22				お風呂に入る	歯磨きをする
23	ラジオ体操をする	朝・昼ごはんをしっかり食べる	早寝早起き、帰ってゆっくり休む	手洗いをする、お風呂に行く	トイレに行く、マスクをする、歯を磨く、鼻をかむ、水分、髪を切る
24	運動	ごはん、おやつ	早く寝る	手洗い、ハンカチ・ティッシュ、風呂、掃除	トイレ、マスク、あいさつ
25		朝起きたら朝ごはんを食べる			歯を磨く
26			たくさん寝る	手洗い、うがい	マスクをする
27		いっぱい食べる		手を洗う	トイレ、歯磨きをする

図3 質問3の回答（筆者が漢字・カタカナに変換）

### 3. 幼児期の運動遊び

#### (1) 先行研究の検討

食事や睡眠、入浴や排泄は、生きていく上で多くの子どもが毎日欠かさず行う行動である。これらの行動と同じように、子ども（特に、幼児期を終えた小学1年生）が運動をもっと身近に感じることができるようにしたい。そうすることで、子どもは、運動することの楽しさやよさを味わうことができるようになると思うからである。

幼児期の運動遊びについて、米谷（2010）は、「幼児の体育は、幼児が楽しみながら、熱中して取り組む姿を見せる『あそび』であることを第一に考えなければならない」と指摘し、例えば「ヨーイドン」や「おみこしレース」などのリレー遊びを紹介している<sup>12)</sup>。これらの運動遊びは、小学校低学年の「走・跳の運動遊び（特に、走の運動遊び）」につながる。また、酒井（2012）は、「身近な素材や道具を用いた運動は、幼児期に身につけるべき操作系、平衡系、移動系の基本運動スキルの向上やバランスのとれた運動能力を育てるうえで効果的な運動」と指摘し、例えばフープを転がす・回す・くぐる・跳ぶ遊びや、教師が転がしたフープの中をくぐり抜ける遊びを紹介した<sup>13)</sup>。これらの運動遊びは、小学校低学年の「体づくりの運動遊び（特に、用具を操作する運動遊び）」につながる。

両者に共通することは、ルールがやさしく、運動の得手不得手に関係なく誰もが楽しめるということである。そのため、運動遊びを通して、領域「健康」のねらいである（1）明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう、（2）自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする、（3）健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動することができることにつながると考えられる。そして、主体的な学びを繰り返した結果、幼児は「幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる」（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」-（1）健康な心と体）のである。

一方で両者には、クラス全体で共通の目的に向かって運動遊びに取り組むルールの工夫が管見の限り見られない。年長クラスにもなれば、幼児一人ひとりが夢中になって、仲間と共に運動遊びに楽しく取り組む経験は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の例えば（3）協同性、（4）道徳性・規範意識の芽生え、（6）思考力の芽生え、（9）言葉による伝え合い、（10）豊かな感性と表現に関する姿につながると期待できる。

これまでの検討を踏まえ、幼児期後期の運動遊びの要点を下の3つに整理した。

- |                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① ルールがやさしく、運動の得手不得手に関係なく誰もが楽しめるようにする。</li> <li>② クラス全員で共通の目的に向かって取り組むことができるルールを設定する。</li> <li>③ 心と体の変化に気付くことができる場を設定する。</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図4 幼児期の運動遊びの要点

図4-①により、幼児は進んで運動遊びに取り組み、多様な動きを身に付けていくであろう（身体面）。また、図4-②により、幼児は仲間と協力しながら運動遊びに取り組み、協同性や個性の大切さに気付くであろう（精神面）。さらに、図4-③により、幼児は、運動遊びの効果や、運動遊びと健康との関連に気付くであろう。

## (2) 運動遊びの開発及び授業実践

本稿では、筆者が開発した幼児期後期の運動遊びを、幼児期を終えて間もない小学1年生を対象にして実施し、幼児期の運動遊びの要点から考察する。(指導案は小学校学習指導の観点に準じる)

ア 単元名 いいね、なかまって(体ほぐしの運動遊び+走の運動遊び【組み合わせ単元】)

イ 指導計画(全6時間)

第1次 多様な動きをつくる運動遊びを楽しもう(2時間)


第2次 いろいろなリレー遊びを楽しもう(4時間)

ウ 本時案(5/6時間)

(i) 主眼

仲間と共に「フラフープリレー」を楽しむことを通して、自己の体力に応じて運動遊びに取り組んだり、遊び方を工夫したりすることができる。

(ii) 展開 ※【知】：知識・技能、【思】：思考・判断・表現、【主】：主体的に学習に取り組む態度

過程	学習活動・内容	子どもの反応、つまずき	主な支援(○)と評価(◆)
導入 12分	1 準備運動をし、学習のめあてを確認する。 ・「にじたいむ」 ・「ゆっくりリレー」 ・「けんけんリレー」 ・「うしろむきリレー」	・「にじたいむ」楽しかったね。 ・みんなで遊んで、心ときどき、顔ほかばか、汗たらたらになったよ。 ・今度は、いろいろなリレーをして遊ぼう。みんなでがんばろうね。 ・やったあ、誰も転ばずにゴールできたぞ、うれしいな。 ・まだゴールしていないチームがあるよ。よし、応援するぞ。がんばれ。 ・みんなでリレーをして楽しいね。今日はどんなリレーをするのかな。	○運動遊びに取り組む前と後の心拍数、体温、汗の量を調べる時間を設定する。そうすることで、心と体の変化に気付くことができるようにする。  ○「転ばなかった班の勝ち」というルールで、いろいろなリレーに取り組むように促す。そうすることで、走ることが苦手な子どもも安心して運動遊びに取り組むことができるようにする。
展開 25分	「ふらふうぶりれえ」をたのしもう！		
	2 「フラフープリレー」に取り組む。 ・遊び方の理解 ・遊び方の工夫 ・仲間との協力	・「フラフープリレー」をやるのだね。どんなルールかな。 ・楽しそう。さっそくやってみよう。 ・僕たちの班は5点だったよ。フラフープをくぐるのが難しかったね。 ・「1くみてん」は20点だったよ。もっと得点を上げたいな。	○各チームの記録を合計し、クラス全体の記録(「1くみてん」)として提示する。そうすることで、他の班とも協力しながら、記録をよくするための作戦を考えることができるようにする。
	 <div>「1くみてん」を上げる作戦を考えよう。</div>		
		・しっかり手を振って走ろうよ。 ・コーンに近い所を回ると速いよ。 ・もっと速くフラフープをくぐりたいね。いい方法はないかな。 ・Aさんが、「前の人と間を空けないでつめたら速いよ」と教えてくれたよ。よし、試してみよう。	○仲間と共に作戦を考えている子どもを価値付けたり紹介したりする。そうすることで、仲間と作戦を考えたり試したりすることの楽しさに気付くことができるようにする。

<p>終末 8分</p>	<p>3 学習を振り返る.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び方の多様性</li> <li>・遊び方を工夫するよさ</li> <li>・次時への意欲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に速くなったよ。Aさん、いい作戦を教えてくださいありがとうございます。</li> <li>・いよいよ2回目が始まるよ。みんな、最後までがんばろうね。</li> <li>・やったあ。僕たちの班は10点になったよ。作戦成功だね。</li> <li>・「1くみてん」が40点上がったよ。すごい。どの班もがんばったね。</li> </ul> <div data-bbox="463 511 528 598"> </div> <div data-bbox="576 531 1200 569"> <p>気に入った作戦は何ですか？どうして気に入ったのですか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラフープをくぐるときに、つめて並んだよ。そうしたら、列が短いから、記録が速くなったよ。</li> <li>・いろいろな作戦があってももしろいな。どの班の作戦も、いい作戦だね。</li> <li>・次の時間も、みんなと一緒に運動遊びを楽しみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい作戦を価値付けたり紹介したりする。そうすることで、新たな作戦に気付いたり、自分の班に合った作戦を選んだりすることができるようにする。</li> <li>◆自己の体力に応じて運動遊びに取り組んだり、遊び方を工夫したりしているか。（発言・観察）【知】・【思】</li> <li>○気に入った作戦について交流する時間を設定する。そうすることで、多様な作戦があることや、遊び方を工夫するよさに気付くことができるようにする。</li> <li>◆仲間と共に作戦を考えたり、主体的に運動遊びに取り組んだりした感想を表現しようとしているか。（発言・挙手）【主】</li> </ul>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## エ 板書計画

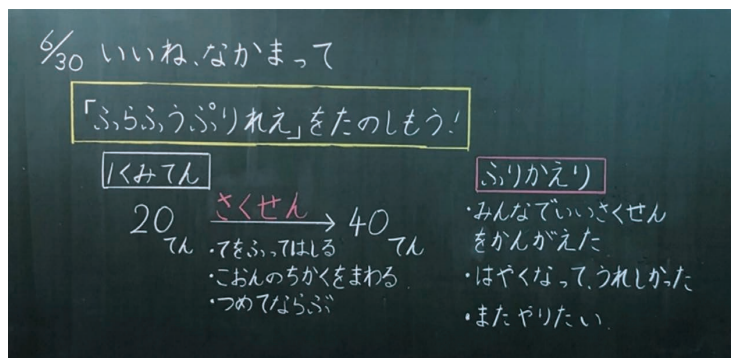


図5 板書計画

## オ 「フラフープリレー」の遊び方（ルール）

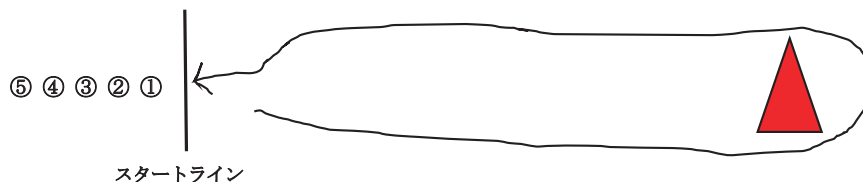


図6 「フラフープリレー」の遊び方（ルール）

- ・各班 4～5 名で構成され，合計 6 つの班がある（4 名の班が 2 つ，5 名の班が 4 つ）。
- ・各班スタートラインに 1 列に並び，最後尾の人（最終走者）は帽子の色を赤色にする。
- ・第 1 走者から順番にフラフープを持って走り，コーンを左回りに回ってスタートラインまで走って戻る。第 2 走者，第 3 走者，第 4 走者（第 5 走者）の順に手に持ったフラフープをくぐらせ，最後の人がかぐり終えたら，スタートラインで待つ第 2 走者にフラフープを手渡す。第 1 走者は，列の最後尾に並ぶ。
- ・最終走者が座ったときのタイマーに表示された残り時間が，その班の得点となる。例えば，タイマー表示が残り 10 秒なら 10 点，残り 1 分 5 秒なら 65 点，制限時間を過ぎ残り 0 秒なら 0 点となる。

カ 本時案における用語について

- 「1 くみてん」…各班の得点を合計した得点のこと。例えば，1 班が 5 点，2 班が 3 点，3 班が 0 点，4 班が 0 点，5 班が 10 点，6 班が 2 点なら，「1 くみてん」は 20 点となる。
- 「にじたいむ」… 6 月の歌「にじ」の曲に合わせて体を動かしたり歌ったりする時間のこと。以下の 5 つの内容で構成される。

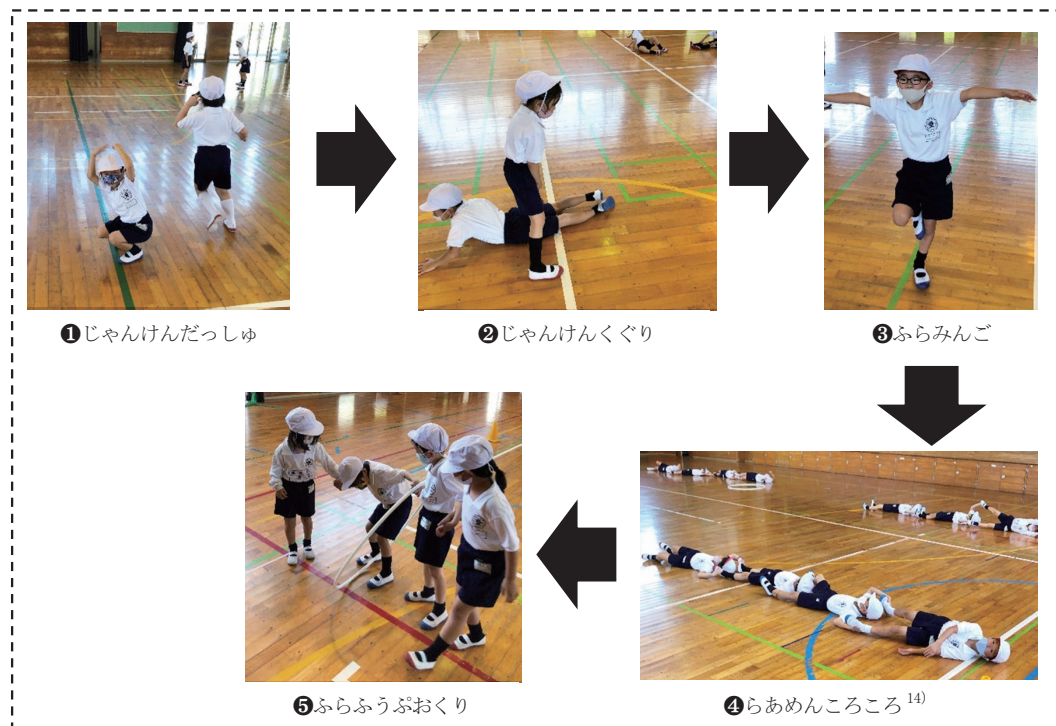


図 7 「にじたいむ」の動き



#### 4. 考察

第1次では、筆者が「じゃんけんダッシュ」、「じゃんけんくぐり」、「フラミンゴ」、「ラーメンころころ」、「フラフープ送り」の行い方を紹介し、子どもたちは動きをまねしながら、多様な動きをつくる運動遊びを楽しんだ。するとS児が「音楽をかけてみたい」と発言し、周りの子どもも賛同した。そこで、話合いの場を設定し、6月の歌「にじ」の曲に合わせて5種類の動きを連続して行うことが決まった。「にじたいむ」という名称は、子どもが名付けた。

第2次では、筆者が「ゆっくりリレー（第1時）」、「けんけんリレー（第1時）」、「後ろ向きリレー（第1時）」、「転がしリレー（第2時）」、「フラフープリレー（第3時／本時）」、「跳び越しリレー（第4時）」の行い方を紹介し、子どもたちは動きをまねしながら、いろいろなリレー遊びを楽しんだ。第1時では、「転ばなかった班の勝ち」というルールを設定したため、運動が苦手な子ども（特に、走ることに苦手意識をもっている子ども）が安心してリレー遊びに取り組む姿が見られた。また、第2時から第4時では、同じ班の仲間と折り合いをつけながら作戦を考えたり、考えたよい作戦を他の班に進んで紹介したりする姿が見られた。ここでは、令和3年6月30日（水）に「フラフープリレー」に取り組んだ子どもの学びの様子を、「幼児期の運動遊びの要点」（図4）と関連付けて考察する。

①ルールがやさしく、運動の得手不得手に関係なく誰もが楽しめるようにする（図4-①）。

授業の導入では、先述した「にじたいむ」に取り組む時間を設定した。運動の得手不得手に関係なく誰もが楽しめる動きで構成されているため、すべての子どもが仲間との交流を楽しみながら、安心して運動遊びに取り組んだ。特に、仲間と動きを合わせる必要のある「ラーメンコロコロ」と「フラフープ送り」では、「いくよ、せーの」といった合図や「落ち着いてやれば大丈夫」、「ナイス」といった励まし・称賛の声が聞かれ、あたたかい雰囲気となった。

また、「転ばなかった班の勝ち」というルールで、いろいろなリレーに取り組むように促した結果、走ることが苦手な子どもも「楽しい」と発言しながら運動遊びに取り組んだ。その結果、誰も転ばなかったため、全員が勝ちと伝えた。これらのことから、運動の得手不得手に関係なく楽しめるルールの設定が重要であることが実証されたと考える。

②クラス全員で共通の目的に向かって取り組むことができるルールを設定する（図4-②）。

各チームの記録を合計し、クラス全体の記録（「1くみてん」）として提示した。すると子どもたちは、みんなで力を合わせて「1くみてん」を上げたいという思いをもち、速く走るための作戦を考えたり、考えた作戦を進んで試したりする姿が見られた。また、よいと感じた他の班の作戦を積極的に取り入れたり、気に入った作戦をみんなに紹介したりする姿も見られた。このような姿から、多くの子どもが、協同性や個性の大切さだけでなく、思考することや伝え合うことの楽しさにも気付いたと考える。さらに、1回目は55点であった「1くみてん」が、子どもたち自らが考えた作戦によって114点に上がったことを知った瞬間に、大きな歓声が上がった。このような姿から、幼児期後期から感動したり喜びを表現したりすること（豊かな感性と表現）の心地よさを実感させることは重要であると考えられる。



図8 「フラフープリレー」に取り組む子ども



図9 作戦を考える子ども

### ③心と体の変化に気付くことができる場を設定する（図4-③）。

「にじたいむ」に取り組む前と後の心拍数、体温、汗の量を調べる時間を設定した。ただし、子どもへは、「どきどき」、「ほかほか」、「たらたら」というイメージしやすい表現で伝えた。運動遊びの後、「すごくどきどきになったよ」、「え？私は、どきどきがあまり変わらなかったよ」や「あー、気持ちよかった」といったつぶやきが子どもから発言されたことから、運動すると心と体に変化が見られることや、それらの変化には個人差があることを認識させることは可能であると考えた。

単元が終わり、子どもたちの運動遊びへの取り組み方や仲間との関わり方を称賛した。そして、「幼稚園の年長さんも、みんなみたいに、これらの運動遊びを楽しめるかな」とつぶやいた。すると、子どもたちが笑顔で「△△幼稚園に遊び方を教えに行こうよ」、「私は、絵を描いて紹介したいな」（図10）、「手紙書きたい」（図11）、「それいいね」と次々に発言した。これらの姿から、運動遊びは、子どもの心の成長により影響を与えるものだと確信した。

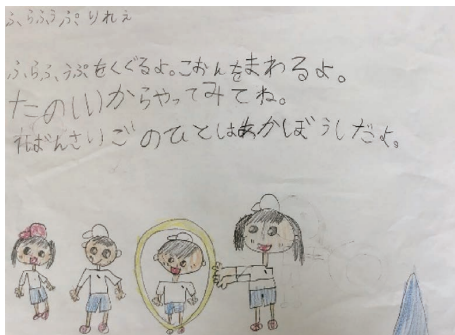


図10 「フラフープリレー」の説明

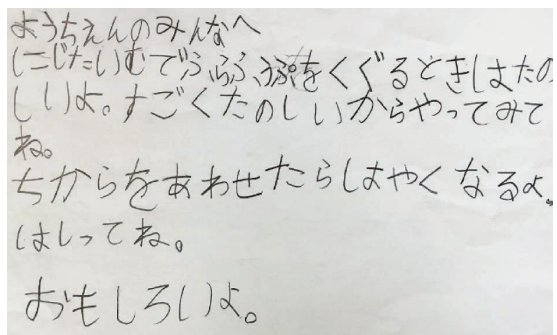


図11 子どもの手紙

## 5. おわりに

本研究では、幼児期の教育や運動遊びの先行研究の検討を踏まえ、幼児期後期の運動遊びの要点として①ルールがやさしく、運動の得手不得手に関係なく誰もが楽しめるようにする、②クラス全員で共通の目的に向かって取り組むことができるルールを設定する、③心と体の変化に気付くことができる場を設定する意義を明らかにした。また、幼児期の運動遊びは、子どもの心と体の成長に



大きな影響を与え、挑戦意欲や思考力、仲間意識や感性などを高めることにつながることも明らかとなった。本研究では、幼児期を終えた小学1年生を対象に実践と考察を行ったが、今後は幼児（特に5歳児）に実践して比較検証を行っていきたい。さらに、3歳児から5歳児までの幼児の運動遊びについても研究を継続し、どのようにして幼児期の終わりまでに育ってほしい姿につないでいくかを計画的・継続的に研究したい。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2020) 「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について (通知)」. [https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf) (2021年8月1日最終閲覧).
- 2) スポーツ庁 (2021) 「学校の水泳授業における感染症対策について」. [https://www.mext.go.jp/content/20210414-mxt\\_kouhou01-0000045201.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210414-mxt_kouhou01-0000045201.pdf) (2021年8月1日最終閲覧).
- 3) 文部科学省 (2020) 「Q&A (学校設置者・学校関係者の皆様へ) 学校行事に関すること」. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/coronavirus/mext\\_00040.html#q5](https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00040.html#q5) (2021年8月1日最終閲覧).
- 4) 小野次朗・榊原洋一 (2020). 『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』. ジアース教育新社, p. 12.
- 5) 文部科学省 (2018). 『幼稚園教育要領解説』. フレーベル館, p. 145.
- 6) 櫻木真智子 (2020)／重安智子・安見克夫編著. 『保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む』. ミネルヴァ書房, p. 65.
- 7) 同上, p. 67.
- 8) 文部科学省 (2018). 『幼稚園教育要領解説』. フレーベル館, pp. 10-17.
- 9) 同上, p. 4, pp. 50-73, pp. 92-93, pp. 142-143.
- 10) 同上, pp. 145-166.
- 11) 文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 体育編』. 東洋館出版社, pp. 105-107.
- 12) 米谷光弘 (2010). 『からだを動かすあそび365』. ひかりのくに株式会社, p. 9, pp. 114-116.
- 13) 酒井俊郎 (2012)／宮田和義・春日晃章・村瀬智彦編著 『幼児のからだところを育てる運動遊び』. 杏林書院, pp. 129-141.
- 14) 紀村修一 (2012)／白旗和也・水上哲彦編集. 「小一教育技術9／10月号」. 小学館, pp. 102-103.

## 臨床心理学関連科目の授業実践について

山下京子\*

(2021年8月16日 受理)

### Class Practice of Subjects Related to Clinical Psychology

Kyoko YAMASHITA\*

This paper reports on the practice of the “Educational Assessment” and “Communication Theory and Practice” classes, and examines the issues. To prevent the spread of COVID-19 infection, online lessons were conducted, but the problem was that there was a lack of lessons to learn the basics of psychology in curriculum organization, rather than not being able to do face-to-face lessons. In childcare and teacher training, clinical psychology has demonstrated expertise in child development assessments, environmental assessments surrounding children, and counseling for children and parents. Rather, the true value of clinical psychology lies in the way we approach the human mind. It is far from efficiency and evidence, but through clinical psychology it is believed that we can have the richness and depth of mind that is needed today. It is also required in childcare worker training and teacher training courses.

**Keywords:** Educational Assessment 教育アセスメント, Communication Theory and Practice コミュニケーションの理論と実践, COVID-19 新型コロナウイルス感染症, childcare and teacher training 保育者・教育者養成, clinical psychology 臨床心理学

#### 1. はじめに

2018年度の全学改組により、幼児教育心理学科は児童教育学科と名称を変更し、カリキュラムの大幅な変更を行った。今年度は完成年度であり、次年度からはさらに部分的にカリキュラムを変更する予定になっている。幼児教育心理学科の前身は、2000年に文学部に開設された人間・社会文化学科である。2007年には、人間・社会文化学科を改組して文学部に幼児教育心理学科を開設し、心理学関連の科目をそのまま残し、そこに保育士資格と幼稚園・小学校教諭免許を取得できるようにカリキュラムを編成した。その後、2012年に文学部と生活科学部を国際教養学部と人間生活学部へ改組し、人間生活学部幼児教育心理学科へ、2018年改組により児童教育学科となり今日に至る。児童教育学科では、人間・社会文化学科のカリキュラムから残っていた心理学関連の科目を見直し、保育者・教育者養成に特化した内容の科目を新設した。人間・社会文化学科と幼児教育心理学科における臨床心理学関連の科目は、次の9科目であった。臨床心理学概論（2年次）、臨床心理学演習（3年次）、心理検査法Ⅰ（3年次）、心理検査法Ⅱ（3年次）、カウンセリング概論Ⅰ（2年次）、カウンセリング概論Ⅱ（2年次）、カウンセリング演習Ⅰ（3年次）、カウンセリング演習Ⅱ（3年次）、カウンセリング実習（4年次）。児童教育学科では、これら9科目を廃止し、「教育アセスメント」

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

(3年次)と「コミュニケーションの理論と実践」(4年次)の2科目を新設した。いずれの科目も選択科目であり、今年度で「教育アセスメント」は2回目の開講、「コミュニケーションの理論と実践」は初めての開講であった。また、昨年度と今年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大のために、部分的に遠隔授業の実施となり、シラバス通りの授業実施とはならなかった。本稿では、コロナ禍における「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の授業実践を紹介し、課題を明らかにするとともに、保育者・教育者養成課程における臨床心理学の位置づけについて考察を加える。

## 2. 「教育アセスメント」の授業実践

2018年度カリキュラムでは、臨床心理学関連科目として「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の2科目を新設した。「教育アセスメント」は、2012年度カリキュラムの「心理検査法Ⅰ」をもとに、行動観察法と面接法、フィードバックの仕方を追加した。2020年度「教育アセスメント」のシラバスを表1に示した。2020年度始めは、全国の高等教育機関がそうであったように、本学もCOVID-19対応に迫られた。授業は連休明け5月11日月曜日から、遠隔授業を実施することになった。大学だけでなく学生も情報環境整備が十分とは言えない状況の中で、Google Classroomを利用すること、原則として双方向型のオンライン授業ではなく、オンデマンド型配信とすることが決定された。「教育アセスメント」は、教科書を使用せず、資料を印刷・配布予定であったが、遠隔授業実施に当たって、授業担当者である筆者が独自に教材用資料を作成することに変更した。遠隔授業用資料は、パワーポイントを用いて作成し、解説音声をつけて動画にして配信した。実際の授業概要について、表2に示した。表2に示されたように、シラバスに記載された授業で扱う内容の大幅な変更はせず、順番や施行方法の変更を行った。すなわち、表1に示したシラバスの授業計画「2 観察法」「3 観察記録の整理・分析」「4 面接法」「5 カウンセリングの基本」「6 面接の実施と記録・分析の仕方」については、当初予定していた、実際に子どもの遊ぶ様子を幼稚園で観察することや、受講生同士でロールプレイングをするグループ・ワークなどは取りやめ、代わりに、観察計画(観察方法・観察記録の取り方・記録の整理・分析の仕方等)を立案する課題や事例についてインタビュー面接の方針を立てる課題に変更した。2020年度前期授業については、原則として遠隔授業であったが、実験実習など特別な場合にのみ対面授業が許可された。そこで心理検査の施行は対面授業で行い、YG性格検査、内田クレペリン作業検査、PFスタディの個別検査はマニュアル通りに実施し、知能検査(WISC-Ⅳ)は、部分的に模擬試行した。対面授業ではCOVID-19対応のために教室定員の制限が設けられ、「教育アセスメント」は2分級となった。2020年度の受講者数は29名(児童教育学科3年生)と、旧カリキュラムの「心理検査法Ⅰ」の受講者2名(幼児教育心理学科4年生)の計31名であった。「教育アセスメント」を「心理検査法Ⅰ」で読み替え対応している。)15名と16名の2グループに分け、授業日と同日に別に1コマを開講した。また、対面授業では、感染予防としてグループ・ワークや、心理検査用具を共有することもできる限り避けようとしたために、当初の予定とは異なり、知能検査(WISC-Ⅳ)を重点的に取り扱うことができなかった。受講者全員が単位を修得したが、新カリキュラム履修の3年生の受講者は、臨床心理学関連科目だけでなく、そもそも心理学関連科目もカリキュラムにない状況での「教育アセスメント」の受講は理解が難しかったようで、提出された課題の評価や、授業アンケート結果にもそのことが表れていた。

## 臨床心理学関連科目の授業実践について

表1 2020年度「教育アセスメント」シラバス

### 授業形態

②演習 ③実験・実習 A: グループワークあり

### 授業目的

教育アセスメントの理論と方法について学習し、実験・実習を通して、子どもを理解するための方法を身につけることを目的とする。  
教育アセスメントの方法として、観察法、面接法、心理検査を取り上げる。各種の教育アセスメントの理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。実際に観察、面接、心理検査を行い、データをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。  
心理検査として、知能検査、描画法検査、質問紙法検査を取り上げる。  
DP2(多様性) 心理学的な視点から人間の心身の発達過程や多様性を理解し、子どもと子どもを取り巻く人々や自己の価値観・生き方、文化的背景の多様性を受容できる。

### 到達目標

- 1 ①教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解し、適切な方法で施行することができる。  
Learning Effort 4 教育アセスメントを定められた方法で実施し、被験者に適切に対応することができた。  
Learning Effort 3 教育アセスメントを実施の手引書に従い、施行することができた。  
Learning Effort 2 教育アセスメントに関する基本的な考え方や施行方法を理解できた。  
Learning Effort 1 教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解できた。
- 2 ②教育アセスメントの結果について、適切に、整理・分析・解釈を行うことができる。  
Learning Effort 4 教育アセスメント結果を手引書に従い、整理・分析し、臨床心理学的理論を用いて解釈できた。  
Learning Effort 3 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理・分析できた。  
Learning Effort 2 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理できた。  
Learning Effort 1 教育アセスメント結果の取り扱い方法について理解できた。
- 3 ③教育アセスメント結果について、報告書を作成することができる。  
Learning Effort 4 教育アセスメント結果について、被験者へのフィードバックを考慮した報告書を作成することができた。  
Learning Effort 3 教育アセスメント結果について、医療機関や教育機関などの提出先に合わせて、報告書を作成できた。  
Learning Effort 2 教育アセスメント結果について報告書の書き方に従い、文章化することができた。  
Learning Effort 1 教育アセスメント結果について、報告書の書き方を理解できた。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か  
授業の進め方について説明し、教育アセスメントについて解説する。  
到達目標①  
事前学修 教育アセスメントについて、どのようなものがあるかを文献等で調べて、ノートにまとめておく。(10分)  
事後学修 配布されたプリントを読む。(10分)
- 2 観察法  
観察法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
観察を行い、記録を作成する。  
到達目標①  
事前学修 観察法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)  
事後学修 観察記録データの整理をする。(10分)
- 3 観察記録の整理と分析・解釈  
観察記録の整理と分析・解釈について説明する。(講義)  
報告書の書き方について説明する。(講義)  
マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。  
到達目標②③  
事前学修 観察記録について見直しをしておく。(10分)  
事後学修 報告書を作成する。(60分)
- 4 面接法  
面接法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
ロールプレイングを行う。  
到達目標①  
事前学修 面接法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)  
事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分)
- 5 カウンセリングの基本  
カウンセリング技法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
ロールプレイングを行う。  
到達目標①  
事前学修 カウンセリング技法について調べて、ノートにまとめておく。(10分)  
事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分)
- 6 面接の実施と記録・分析の仕方  
模擬面接を行い、記録を作成する。  
分析の仕方を解説する。(講義)  
到達目標②③  
事前学修 カウンセリングの基本を、見直しをしておく。(10分)  
事後学修 報告書を作成する。(60分)

- 7 質問紙法による性格検査の施行 (YG, 東大式エゴグラム)
 

質問紙法による性格検査の理論的背景について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)

性格検査を施行する。

到達目標①

事前学修 YG, 東大式エゴグラムについて調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 理論的背景をノートにまとめる。(10分)
- 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈 (YG, 東大式エゴグラム)
 

質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈について説明する。(講義)

報告書の書き方について説明する。(講義)

マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。

到達目標②③

事前学修 実施した心理検査の結果について、見直しをしておく。(10分)

事後学修 報告書を作成する。(60分)
- 9 描画法による心理検査
 

描画法による心理検査の概要と、施行方法を紹介する。(講義)

描画法による心理検査を施行する。

到達目標①

事前学修 描画法による心理検査についてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 描画法による心理検査の長所と短所についてまとめる。(10分)
- 10 描画法による心理検査の分析・解釈
 

描画法による心理検査の分析・解釈について説明する。(講義)

検査結果を分析・解釈する。

到達目標②③

事前学修 描画法の結果の分析・解釈の仕方について、配布されたプリントを見ておく。(10分)

事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分)
- 11 知能検査 (ウエクスラー式知能検査)
 

知能検査について、理論的背景を紹介し、施行方法について、DVDを用いて説明する。(講義)

到達目標①

事前学修 知能検査について調べ、ノートにまとめておく。(10分)

事後学修 施行方法について、マニュアルを読む。(10分) 熟読し、練習をしておく。(30分)
- 12 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行
 

知能検査を施行する。

ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。

到達目標①

事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分)

事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分)
- 13 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行
 

知能検査を施行する。

ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。

到達目標①

事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分)

事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分)
- 14 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の結果整理と分析・解釈
 

知能検査の結果の整理、分析・解釈について説明する。(講義)

結果について、整理、分析・解釈を行う。

到達目標②③

事前学修 検査結果を用意しておく。(10分)

事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分)
- 15 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方
 

アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方について解説を行う。(講義)

到達目標③

事前学修 これまでの報告書をもとに、フィードバックの仕方を考えておく。(10分)

事後学修 報告書を見直し、フィードバックしやすいように推敲する。(10分)

#### 授業成果

観察法や面接法、心理検査法の実施方法を習得し、アセスメント結果の整理、分析、解釈ができる。

#### 成績評価の方法

授業で取り上げるアセスメント方法すべてについて、レポート提出を要求する。提出されたレポートについて、実施方法が適切であるか (20%)、データの整理の仕方が適切で正確であるか (30%)、データの分析・解釈がマニュアルに従って行われているか (30%)、報告書の形式に従っているか (20%) で、総合的に評価する。

臨床心理学関連科目の授業実践について

表2 2020年度「教育アセスメント」授業の概要

授業回	授業実施日	授業計画シラバス変更	授業概要
1	5・11 遠隔 オンデマンド	1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か 2 観察法	遠隔用資料:観察法(解説付きスライド) 事後課題 観察計画を立てる
2	5・18 遠隔 オンデマンド	3 観察記録の整理と分析・解釈	遠隔用資料:行動観察(解説付きスライド) 事後課題 観察計画の修正
3	5・25 遠隔 オンデマンド	4 面接法 5 カウンセリングの基本	遠隔用資料:面接法(解説付きスライド) 事前課題 面接法について 事後課題 ケース2事例
4	6・1 遠隔 オンデマンド	6 面接の実施と記録・分析の仕方 9 描画法による心理検査	遠隔用資料:事後課題(観察計画・インタビュー面接)について解説(解説付きスライド) 遠隔用資料:心理検査(解説付きスライド) 事前課題 心理検査法について 事後課題 描画法による心理検査
5	6・8 遠隔 オンデマンド	10 描画法による心理検査の分析・解釈	遠隔用資料:バウム・テストの見方(解説付きスライド) 事後課題 分析・解釈
6	6・15 遠隔 オンデマンド	7 質問紙法による性格検査の施行(YG, 東大式エゴグラム) 11 知能検査(ウエクスラー式知能検査)	遠隔用資料:心理検査について解説(解説付きスライド) 事後課題 事例
7	6・22 遠隔 オンデマンド	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈(YG, 東大式エゴグラム) 12 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行	遠隔用資料:心理検査について解説(解説付きスライド) 事後課題 事例
8	6・29 遠隔 オンデマンド	13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 14 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の結果整理と分析・解釈	遠隔用資料:心理検査(知能検査, PF スタディ, 内田クレベリン)の解説(解説付きスライド) 事後課題 小テスト
9	7・6 遠隔 オンデマンド	15 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方	遠隔用資料:心理検査(知能検査)の解説(解説付きスライド) 事後課題 小テスト
10	7・13 対面 2分級	7 質問紙法による性格検査の施行(YG, 東大式エゴグラム)	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 心理検査結果整理
11	7・20 対面 2分級	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈(YG, 東大式エゴグラム) 12 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行 13 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の施行	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 心理検査結果整理
12	7・27 対面 2分級	14 知能検査(ウエクスラー式知能検査)の結果整理と分析・解釈	授業:心理検査(YG, 内田クレベリン, PF スタディ, 知能検査)の施行 事後課題 YG, 内田クレベリン, PF スタディのレポート 事後課題 事例①②

保育者・教育者養成における1科目として、行動観察法や面接法、心理検査として知能検査に重点を置きたかったが、COVID-19対応のために変更や修正をせざるを得なかった。

2021年度のシラバスには、COVID-19対応として、「ICTツール等の活用」が追加された。表3に2021年度「教育アセスメント」シラバスを示した。「教育アセスメント」においても「授業の連絡にMelly<sup>1)</sup>を利用。課題提示・提出にGoogle Classroomを利用。」を追記した。Mellyは、学生と教員をつなぐ授業支援SNSアプリである。2020年度後期は、最初是对面授業で始まったが、途中から遠



表3 2021年度「教育アセスメント」シラバス

## 授業形態

A: 授業形態②演習③実験・実習 A: グループワークあり

B: ICT ツール等の活用

授業の連絡に Melly を利用。

課題提示・提出に Google Classroom を利用。

## 授業目的

【授業の目的】教育アセスメントの理論と方法について学習し、実験・実習を通して、子どもを理解するための方法を身につけることを目的とする。教育アセスメントの方法として、観察法、面接法、心理検査を取り上げる。各種の教育アセスメントの理論と施行法、結果の整理と分析・解釈の仕方について学習する。実際に観察、面接、心理検査を行い、データをもとに、結果の整理、分析・解釈を試みる。心理検査として、知能検査、描画法検査、質問紙法検査を取り上げる。

【カリキュラム上の位置づけ】DP2 (多様性) 心理学的な視点から人間の心身の発達過程や多様性を理解し、子どもと子どもを取り巻く人々や自己の価値観・生き方、文化的背景の多様性を受容できる。

## 到達目標

- 1 ①教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解し、適切な方法で施行することができる。  
 Learning Effort 4 教育アセスメントを定められた方法で実施し、被験者に対応することができた。  
 Learning Effort 3 教育アセスメントを実施の手引書に従い、施行することができた。  
 Learning Effort 2 教育アセスメントに関する基本的な考え方や施行方法を理解できた。  
 Learning Effort 1 教育アセスメントについて、基本的な考え方を理解できた。
- 2 ②教育アセスメントの結果について、適切に、整理・分析・解釈を行うことができる。  
 Learning Effort 4 教育アセスメント結果を手引書に従い、整理・分析し、臨床心理学的理論を用いて解釈できた。  
 Learning Effort 3 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理・分析できた。  
 Learning Effort 2 教育アセスメント結果を手引書に従い、適切に整理できた。  
 Learning Effort 1 教育アセスメント結果の取り扱い方法について理解できた。
- 3 ③教育アセスメント結果について、報告書を作成することができる。  
 Learning Effort 4 教育アセスメント結果について、被験者へのフィードバックを考慮した報告書を作成することができた。  
 Learning Effort 3 教育アセスメント結果について、医療機関や教育機関などの提出先に合わせて、報告書を作成できた。  
 Learning Effort 2 教育アセスメント結果について報告書の書き方に従い、文章化することができた。  
 Learning Effort 1 教育アセスメント結果について、報告書の書き方を理解できた。

## 授業計画

- 1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か  
 授業の進め方について説明し、教育アセスメントについて解説する。  
 到達目標①  
 事前学修 教育アセスメントについて、どのようなものがあるかを文献等で調べて、ノートにまとめておく。(10分)  
 (Google Classroom で提出)  
 事後学修 配布されたプリントを読む。(10分)
- 2 観察法  
 観察法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
 観察を行い、記録を作成する。  
 到達目標①  
 事前学修 観察法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)  
 事後学修 観察記録データの整理をする。(10分)
- 3 観察記録の整理と分析・解釈  
 観察記録の整理と分析・解釈について説明する。(講義)  
 報告書の書き方について説明する。(講義)  
 マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。  
 到達目標②③  
 事前学修 観察記録について見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出)  
 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
- 4 面接法  
 面接法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
 ロールプレイングを行う。  
 到達目標①  
 事前学修 面接法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)  
 事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分) (Google Classroom で提出)
- 5 カウンセリングの基本  
 カウンセリング技法について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義)  
 ロールプレイングを行う。  
 到達目標①  
 事前学修 カウンセリング技法について調べて、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出)  
 事後学修 ロールプレイングの記録の整理をする。(10分) (Google Classroom で提出)
- 6 面接の実施と記録・分析の仕方  
 模擬面接を行い、記録を作成する。  
 分析の仕方を解説する。(講義)



## 臨床心理学関連科目の授業実践について

	到達目標②③
	事前学修 カウンセリングの基本を、見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
7	質問紙法による性格検査の施行 (YG, 東大式エゴグラム) 質問紙法による性格検査の理論的背景について紹介し、施行方法について説明を行う。(講義) 性格検査を施行する。
	到達目標①
	事前学修 YG, 東大式エゴグラムについて調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 理論的背景をノートにまとめる。(10分) (Google Classroom で提出)
	8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈 (YG, 東大式エゴグラム) 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈について説明する。(講義) 報告書の書き方について説明する。(講義) マニュアルに従い、結果整理、分析、解釈を行う。
	到達目標②③
	事前学修 実施した心理検査の結果について、見直しをしておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
9	描画法による心理検査 描画法による心理検査の概要と、施行方法を紹介する。(講義) 描画法による心理検査を施行する。
	到達目標①
	事前学修 描画法による心理検査についてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 描画法による心理検査の長所と短所についてまとめる。(10分) (Google Classroom で提出)
	10 描画法による心理検査の分析・解釈 描画法による心理検査の分析・解釈について説明する。(講義) 検査結果を分析・解釈する。
	到達目標②③
	事前学修 描画法の結果の分析・解釈の仕方について、配布されたプリントを見ておく。(10分) 事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
11	知能検査 (ウエクスラー式知能検査) 知能検査について、理論的背景を紹介し、施行方法について、DVD を用いて説明する。(講義)
	到達目標①
	事前学修 知能検査について調べ、ノートにまとめておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 施行方法について、マニュアルを読む。(10分) 熟読し、練習をしておく。(30分)
	12 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行 知能検査を施行する。 ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。
	到達目標①
	事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分) 事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分) (Google Classroom で提出)
13	知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の施行 知能検査を施行する。 ウエクスラー式知能検査の WISC, WPPSI について、グループで順番に実施する。
	到達目標①
	事前学修 グループで実施する知能検査のマニュアルを熟読し、練習をしておく。(30分) 事後学修 検査結果を記録用紙にまとめる。(30分) (Google Classroom で提出)
	14 知能検査 (ウエクスラー式知能検査) の結果整理と分析・解釈 知能検査の結果の整理、分析・解釈について説明する。(講義) 結果について、整理、分析・解釈を行う。
	到達目標②③
	事前学修 検査結果を用意しておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 分析・解釈を完成させ、報告書を作成する。(60分) (Google Classroom で提出)
15	アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方 アセスメント報告書の書き方とフィードバックの仕方について解説を行う。(講義)
	到達目標③
	事前学修 これまでの報告書をもとに、フィードバックの仕方を考えておく。(10分) (Google Classroom で提出) 事後学修 報告書を見直し、フィードバックしやすいように推敲する。(10分) (Google Classroom で提出)
授業成果	
観察法や面接法、心理検査法の実施方法を習得し、アセスメント結果の整理、分析、解釈ができる。	
成績評価の方法	
授業で取り上げるアセスメント方法すべてについて、レポート提出を要求する。提出されたレポートについて、実施方法が適切であるか (20%)、データの整理の仕方が適切で正確であるか (30%)、データの分析・解釈がマニュアルに従って行われているか (30%)、報告書の形式に従っているか (20%) で、総合的に評価する。	

隔授業となった。2021年に入っても、COVID-19は収束せず、2021年度授業では、対面授業を原則としつつ、いつでも遠隔授業に対応できるように最初から Google Classroom を開講するように求められた。「教育アセスメント」の2021年度受講希望者は15名（最終受講者数は14名）であり、教室定員の制限以下となり、2分級の必要はなかった。2020年度に大学の情報環境の整備が行われ、オンデマンド型、同時双方向型、ハイブリッド型授業の実施が可能となった。また、教室ごとの換気調査も進み、キャンパス内の各建物への進入時の手指消毒と体温測定、教員や学生のフェイスシールドの着用など、対面授業における感染予防対策も徹底された状態で、2021年度前期を迎えた。2021年度の「教育アセスメント」の授業概要を表4に示した。

2021年度「教育アセスメント」の授業内容は、COVID-19対応のために2020年度同様、子どもの行動観察や模擬面接の実施は中止し、代替のプログラムを準備した。また、対面授業が可能となった場合には、知能検査についての取り扱いを優先させるために、授業実施順序を変更することとした。対面授業、遠隔授業に関わらず、配信可能な授業用資料は全て Google Classroom により配信し、配信できない教材等の資料は、対面で配布した。実際には、表4に示されたように、1回目から3回目まで対面授業、4回目から7回目まで遠隔授業、8回目から15回目まで対面授業となった。なお、今回は実験実習等の特別な授業として、通常の対面授業実施より2週間早く対面授業の実施が可能となった。前年度と異なり、遠隔授業では、Google Meet を用いて双方向型のオンライン授業実施が可能となり、「教育アセスメント」の授業でも Google Meet でスライドやホワイトボードを共有して授業配信を行った。受講者数が15名という前年度の半数であったため、教員と学生、学生間のやり取りもリアルタイムで円滑に行うことができた。今年度の授業では、知能検査（WISC-IV）を重点的に取り上げることを計画しており、対面授業が始まった8回目から、グループに分かれて知能検査の模擬施行を行うことができた。ただし、COVID-19対応のために、密となる心理実験室の利用は避け、3～4名からなる4グループが、一つの教室内で検査を施行するといった形態をとった。また、知能検査を扱う授業回数がシラバスの3回から5回に増加したのは、当初予定していた授業時間外のグループ・ワークが、感染予防対策のために実施できなかったためであるが、臨床心理学をはじめとする心理学関連の履修科目がないカリキュラムにおける本科目の位置づけの問題も関係していたかもしれない。性格検査としては、YG 性格検査、東大式エゴグラム、内田クレペリン作業検査について、対面授業で取り扱った。

「教育アセスメント」は、2022年度入学生カリキュラムからなくなる科目の一つである。教育現場で活用できる心理学的アセスメントとして、観察法、面接法、心理検査を取り上げ、施行法やデータの整理、分析・解釈について学ぶことをねらいとした科目であるが、履修の前提として、基礎的な心理学的知識が必要であり、2018年度入学生カリキュラムでは、その点が十分考慮されなかったと言える。「教育アセスメント」で取り上げた心理検査のうちウエクセラ式知能検査（WISC-IV）は、6歳から16歳を対象とした児童用個別知能検査で、発達障害の診断や支援に活用されている。発達障害への理解は、特別支援教育においても重要視されている。具体的には、教育職員免許法の改正（平成28年11月）及び同法施行規則の改正（平成29年11月）により、教職課程で履修すべき事項について全面的な見直しが行われ、新たに加えられた内容の一つに特別支援教育の充実がある（文部科学省<sup>2)</sup>。平成31年4月1日施行に伴い新課程が開始され、「教育の基礎的理解に関する科目」に含めることが必要な事項として「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（1単

臨床心理学関連科目の授業実践について

表 4 2021年度「教育アセスメント」授業の概要

授業回	授業実施日	授業計画シラバス変更	授業概要
1	4・13 対面授業	1 オリエンテーション・教育アセスメントとは何か 2 観察法	対面授業：教育アセスメント・観察法 グループ・ワーク 事後課題：教育・保育場面におけるアセスメントの必要性
2	4・20 対面授業	2 観察法 3 観察記録の整理と分析・解釈	対面授業：観察法・観察記録の整理と分析・解釈 グループ・ワーク 事後課題：観察計画
3	4・27 対面授業	4 面接法	対面授業：面接法 グループ・ワーク
4	5・11 遠隔 Google Meet	4 面接法 5 カウンセリングの基本	同時双方向型授業：面接法 ワーク課題：ジェノグラム 事後課題：面接法によるアセスメント
5	5・18 遠隔 Google Meet	6 面接の実施と記録・分析の仕方 9 描画法による心理検査	同時双方向型授業：面接法とアセスメント・心理検査 事後課題：パウムテストの施行
6	5・24 遠隔 Google Meet	10 描画法による心理検査の分析・解釈	同時双方向型授業：描画法による心理検査の分析・解釈 事後課題：パウムテストの分析・解釈
7	6・1 遠隔 Google Meet	11 知能検査（ウエクスラー式知能検査）	同時双方向型授業：知能検査 事後課題：対面授業の準備
8	6・8 対面授業	12 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
9	6・15 対面授業	13 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
10	6・22 対面授業	13 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の施行	対面授業：WISC-IVの施行 グループ・ワーク 事後課題：施行法の復習と記録整理
11	6・29 対面授業	14 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の結果整理と分析	対面授業：WISC-IVの施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：記録整理と分析
12	7・6 対面授業	14 知能検査（ウエクスラー式知能検査）の結果整理と分析	対面授業：WISC-IVの結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：WISC-IV報告書作成
13	7・13 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム）	対面授業：YG性格検査の施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：YG性格検査報告書作成
14	7・20 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム）	対面授業：内田クレバリン作業検査の施行・結果整理と分析 グループ・ワーク 事後課題：内田クレバリン作業検査報告書作成
15	7・25 対面授業	7 質問紙法による性格検査の施行（YG，東大式エゴグラム） 8 質問紙法による性格検査の結果整理と分析・解釈（YG，東大式エゴグラム） 15 アセスメント報告書の書き方とフィードバック	対面授業：東大式エゴグラムの施行・結果整理と分析・心理検査のフィードバック グループ・ワーク 事後課題：東大式エゴグラム報告書作成 試験課題：知能検査結果のフィードバック

位以上修得）が挙げられている（文部科学省）<sup>3)</sup>。本学においても、2019年度児童教育学科入学生から、この新教職課程が適用され、2018年度入学生カリキュラムで開設された「特別支援教育」（3年次2単位）が選択科目から必修科目となった。2022年度「教育アセスメント」は開講予定であり、教

職課程における特別支援教育の充実を考慮に入れ、発達障害を主な対象とした授業内容の変更も検討する必要があると考えられる。

### 3. 「コミュニケーションの理論と実践」の授業実践

「コミュニケーションの理論と実践」（4年次2単位）は、保育・教育現場におけるコミュニケーション力の育成を目標に、今年度初めて開講された。幼児教育心理学科及び人間・社会文化学科では、全国実務教育協会<sup>4)</sup>による「カウンセリング実務士」<sup>5)</sup>資格取得が可能となるカリキュラムを用意していたが、2018年改組と同時に、資格取得のためのカリキュラムを廃止した。児童教育学科では、「カウンセリング実務士」資格取得のための必修科目として開講していた「カウンセリング概論Ⅰ」「カウンセリング概論Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」「カウンセリング実習」5科目を廃止し、その代わりに新たに選択科目「コミュニケーションの理論と実践」を開講し、4年次前期に配置した。選択科目を4年次前期に配置したのは、旧カリキュラムの「カウンセリング実習」が4年次前期配置であったことと、児童教育学科の学生のほとんどが初等教職課程や保育士課程を履修することから、免許・資格に関連する科目数が多く、3年次までの科目配置が難しかったことが理由である。4年次には、ほとんどの学生が卒業に必要な単位数を取得している現状から、受講希望者数は非常に少ないと予想された。「コミュニケーションの理論と実践」のシラバスを表5に示した。表5に示されたように、授業は、講義とグループワークから構成されていた。果たして、2021年度の「コミュニケーションの理論と実践」の受講希望者数は1名であった。改組完成年度に初めて開講する科目であることから、受講者数1名であっても、当該学生が受講を希望する限りは授業を行うことにした。表5に示した授業内容は変更せず、授業形態からグループワークを除外した。実際の授業の概要を表6に示した。この授業も、他の授業同様、当初から Google Classroom を活用し、配信可能な資料は全て配信した。また、4回目の授業から9回目の授業まで遠隔授業となり、Google Meet による同時双方向型のオンライン授業を実施した。授業内容は、シラバス通りであったが、授業形態は予定していたグループワークの代わりに、教員1名と受講者1名のディスカッション方式を取り入れた。

初めて開講した「コミュニケーションの理論と実践」は、1対1の授業形態で15回実施された。途中6回は遠隔授業となったが、対面授業との違いはほとんどなかったように思われる。遠隔授業になった時期と、受講者が就職活動でWEB面接を受ける時期が重なり、また授業内容もちょうど「対人コミュニケーション」を扱っていたことから、模擬WEB面接もワークとして取り入れた。授業で学んだことを実践の場で役立てることができたことについて、受講者には好評であり、個人に合わせた授業ができたと考えられるが、受講者1名では、受講者同士の学び合いの機会を提供できず、課題が残された。グループワークができる数名程度の受講者がいるのが理想であろう。2018年度改組のカリキュラム編成において免許・資格に直接関係しない選択科目を4年次に配置した時点で、受講希望者数はほとんど見込めないことも予想し得たことから、科目新設の是非について検討すべきであった。「コミュニケーションの理論と実践」の授業も「教育アセスメント」同様、2022年度入学生用カリキュラムからは削除されるが、コミュニケーション力については、その重要性を認識し、育成方法についてさらなる検討が必要である。コミュニケーション力は非認知能力の一つとされ、他の様々な非認知能力の要素と関連していることが示されており（生涯学習総合研究所、2020）<sup>6)</sup>、特

## 臨床心理学関連科目の授業実践について

表5 2021年度「コミュニケーションの理論と実践」シラバス

### 授業形態

A：授業形態

②演習④ディスカッション、ディベート A：グループワーク有り B：発表（プレゼンテーション）有り

B：ICT ツール等の活用

授業の連絡に Melly を利用。

課題提示・提出に Google Classroom を利用。

### 授業目的

【授業の目的】 コミュニケーションの理論と、対人関係の基礎について学習し、保育・教育現場での対人援助に必要なコミュニケーション力を身に付けることを目的とする。カウンセリング技法を中心として、ロールプレイなどの実習を通して、適切なコミュニケーションの取り方を学ぶとともに、様々な場面で実践的に応用し、他者と良好な関係を形成する力を開発する。

【カリキュラム上の位置づけ】 DP5（子育て支援）家庭・地域社会において子育て支援を行うための知識・技術と実践力を身に付けることができる。

### 到達目標

- 1 ①コミュニケーションの理論の基礎的な知識を習得することができる。  
 Learning Effort 4 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を習得することができ、具体的な例を挙げ説明することができた。  
 Learning Effort 3 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を理解し、説明することができた。  
 Learning Effort 2 コミュニケーションの理論の基礎的な知識を理解できた。  
 Learning Effort 1 コミュニケーションの理論の基礎的な知識に興味関心を持つことができた
- 2 ②対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得することができる。  
 Learning Effort 4 対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得し、具体的な場面で使用する事例について説明することができた。  
 Learning Effort 3 対人コミュニケーションの基礎的な技能を習得し、他者に説明することができた。  
 Learning Effort 2 対人コミュニケーションの基礎的な技能を理解し、自分で使用することができた。  
 Learning Effort 1 対人コミュニケーションの基礎的な技能について、理解することができた。
- 3 ③様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用することができる。  
 Learning Effort 4 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者と良好な関係を維持することができた。  
 Learning Effort 3 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者と良好な関係を形成することができた。  
 Learning Effort 2 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面で他者とのかわり合いを積極的に行うことができた。  
 Learning Effort 1 様々な場面でコミュニケーション・スキルを応用し、日常場面における対人関係に興味関心を持つことができるようになった。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション  
 授業の進め方について、オリエンテーションを行う。コミュニケーションについて解説する。（講義）  
 到達目標①  
 事前学修 資料を読む。（10分）（Google Classroom で提示）  
 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
- 2 コミュニケーションの理論  
 コミュニケーションの理論について解説する。（講義）  
 到達目標①  
 事前学修 資料を読む。（10分）（Google Classroom で提示）  
 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
- 3 自己とのコミュニケーション  
 自己とのコミュニケーションについて解説する。（講義）  
 自己とのコミュニケーション（実習）を実施し、グループに分かれて、話し合い、まとめを発表する。  
 到達目標①②  
 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示）  
 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
- 4 対人コミュニケーション①自己開示  
 自己開示について解説する。（講義）  
 グループ・ワーク。  
 到達目標①②  
 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示）  
 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
- 5 対人コミュニケーション②傾聴  
 傾聴について解説する。（講義）  
 グループ・ワーク。  
 到達目標①②  
 事前学修 課題に取り組む。（20分）（Google Classroom で提示）  
 事後学修 受講の感想。（10分）（Google Classroom で提出）
- 6 対人コミュニケーション③受容と共感  
 受容と共感について解説する。（講義）



- グループ・ワーク。  
到達目標①②  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 7 対人コミュニケーション④他者の心を動かすコミュニケーション  
他者の心を動かすコミュニケーションについて解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標①②  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 8 子どもとのコミュニケーション (言語的)  
子どもとのコミュニケーションについて解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 9 子どもとのコミュニケーション (非言語的)  
子どもとの非言語的コミュニケーションについて解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 10 対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱い  
対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱いについて解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 11 幼稚園や保育所、小学校における対人コミュニケーション①保護者対応  
保護者対応について解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 12 幼稚園や保育所、小学校における対人コミュニケーション②面接場面  
面接場面における適切なコミュニケーションの在り方について解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 13 小学校における児童のコミュニケーション能力を高める  
小学校における児童のコミュニケーション能力を高める方法について解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 14 ポジティブなコミュニケーション  
ポジティブなコミュニケーションについて解説する。(講義)  
グループ・ワーク。  
到達目標②③  
事前学修 課題に取り組む。(20分) (Google Classroom で提示)  
事後学修 受講の感想。(10分) (Google Classroom で提出)
- 15 まとめ・テスト  
まとめ・テスト  
授業のまとめを行う。(講義30分)  
テスト (60分)  
到達目標①②③  
事前学修 テストの準備をしておく。(120分)  
事後学修 テストの振り返りをする。(20分) (Google Classroom で提出)

#### 授業成果

コミュニケーション能力を高め、様々な場面で実践的に応用することができ、円滑な対人関係を営むことができる。

#### 成績評価の方法

課題提出 (50%)、グループワーク (30%)、試験 (20%)。

表6 2021年度「コミュニケーションの理論と実践」授業の概要

回数	実施日	授業方法	授業概要
1	4・14	対面授業	1 オリエンテーション
2	4・21	対面授業	2 コミュニケーションの理論
3	4・28	対面授業	3 自己とのコミュニケーション
4	5・12	遠隔授業	4 対人コミュニケーション①自己開示
5	5・19	遠隔授業	5 対人コミュニケーション②傾聴
6	5・26	遠隔授業	6 対人コミュニケーション③受容と共感
7	6・2	遠隔授業	7 対人コミュニケーション④他者の心を動かすコミュニケーション
8	6・9	遠隔授業	8 子どもとのコミュニケーション（言語的）
9	6・16	遠隔授業	9 子どもとのコミュニケーション（非言語的）
10	6・23	対面授業	10 対人コミュニケーションにおけるネガティブな感情の扱い
11	6・30	対面授業	11 幼稚園や保育所，小学校における対人コミュニケーション①保護者対応
12	7・7	対面授業	12 幼稚園や保育所，小学校における対人コミュニケーション②面接場面
13	7・14	対面授業	13 小学校における児童のコミュニケーション能力を高める
14	7・21	対面授業	14 ポジティブなコミュニケーション
15	7・28	対面授業	15 まとめ・テスト

に保育者・教育者などの対人援助職に就く学生には必要な能力であると考えられる。1科目の授業のみでコミュニケーション力の育成に効果があるわけではないものの、旧カリキュラムで「カウンセリング実務士」資格取得の必修科目5科目から、児童教育学科での選択科目1科目へ、さらに2022年度入学生カリキュラムで削除されるという流れにあって、今後開講されるそれぞれの授業の中で、コミュニケーション力の育成を意識したグループワーク等を取り入れるなどの工夫が必要であると考えられる。

#### 4. 保育者・教育者養成課程における臨床心理学の位置づけ

2018年度改組によるカリキュラムにおいて、「臨床心理学」の名称は開講科目一覧から消えた。臨床心理学関連科目としては、選択科目「教育アセスメント」、選択科目「コミュニケーションの理論と実践」、保育士資格必修科目の「保育相談支援」（19年度入学生からは「子育て支援」）、小学校教諭免許必修科目「教育相談」であった。保育者養成校における心理学教育の役割について、大神（2019）<sup>7)</sup>は、心理学の知識や理解を保育の文脈のなかでどう活かせるかまでつなぐことが求められており、「心理学は、実践力につながる包括的知識の基盤として必要不可欠なものと位置づけられる」（p.12）と述べている。ここでの心理学は、発達心理学を中心とした心理学全般について指していると思われる。保育者養成において、臨床心理学は、乳幼児の発達アセスメントや子育て支援相談などでその専門性を活かすことになるかと推測される。一方、学校教育現場では、文部科学省が積極的に取り組んでいる「不登校」<sup>8)</sup>「いじめ」<sup>9)</sup>問題や、「子どもの自殺予防」<sup>10)</sup>などに見られるように、その問題理解や対応において臨床心理学の知見が有効であると考えられている。大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示す「教職課程コアカリキュラム」<sup>11)</sup>においても、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のひとつとして「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」が挙げられている。本学においても



「教育相談」の授業で、コアカリキュラムに沿ったシラバスを作成し開講している。ストレスや不適応状況下における子どもの心理の理解、カウンセリングなどの子どものこころのケアの方法、メンタルヘルスの予防対策など、臨床心理学の理論や方法の多くは、教育の場で実践的に活用されている。このように臨床心理学は、アセスメントやカウンセリングなどの実践性を特徴とすることを考慮するならば、保育者養成や教育者養成において、専門性を身につけ実践の場で活用できる応用科目として位置付けられるように思われる。

2018年改組により児童教育学科は、保育者・教育者養成に特化した学科として歩み始めた。臨床心理学の専門性としてアセスメントとカウンセリングに着目し、「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」の2科目を新設したが、臨床心理学の基礎的知識を習得するための科目や、資格・免許に必須の心理学関連科目以外の心理学専門科目の欠如するカリキュラムでは、授業目標の達成は困難であったように思われた。保育者・教育者養成課程において、文部科学省や厚生労働省により指定された科目を置くと、専門科目として独自の科目を置くことのできる範囲は、たとえ選択科目であってもかなり限定されてしまうのが実情である。特に、教育実習や保育実習の前にできる限り専門科目を学修させたい養成校と、できるだけ効率よく単位を修得し免許・資格の取得を目指す学生の意向もあって、免許・資格に直結しない選択科目はどちらかと言えば敬遠される傾向が強いと言えるだろう。

臨床心理学は、アセスメントやカウンセリングなど実践的な側面もあるが、効率性とは程遠い側面も併せ持つ。臨床心理学における「こころ」へのアプローチとして、フロイトによる精神分析学や、ユング心理学などの深層心理に関する理論を学ぶことや、民話や伝説、絵本や児童文学作品に表現された物語を通して、無意識やファンタジーの世界について学ぶことがある。効率性や効果の可視化などが求められる今日、時代の流れに逆行するようであるが、「こころ」について向き合いじっくりと考える臨床心理学の持ち味を体験できるような授業もあってよいように思われる。保育者養成においては、児童文化財について学ぶ授業などで取り扱うことも十分可能であるし、実際そのようにしている養成校も多いのではないかと推測する。教育者養成においても、現代の子どもの置かれた、多様な問題を孕む環境や、その環境により影響を受ける子どもの心理や発達を理解する上で、臨床心理学の「こころ」へのアプローチは必要なものではないかと考えられる。

## 5. おわりに

児童教育学科の2018年度改組カリキュラムにおける臨床心理学関連の科目「教育アセスメント」「コミュニケーションの理論と実践」について、授業実践の概要を示した。授業の一部がCOVID-19対応による遠隔授業となったが、課題はむしろカリキュラム編成の在り方にあったように思われる。22年度入学生カリキュラムから、さらに臨床心理学を含む心理学関連の選択科目が消滅するが、保育者・教育者養成に特化する学科方針の下、カリキュラムのスリム化は避けて通れない事であろう。臨床心理学を専門とする筆者としては、いろいろな授業の中で、臨床心理学の「こころ」へのアプローチを活用し、将来保育者や教育者となる学生の「こころ」に、豊かさや深みを育んで欲しいと願っている。

## 謝辞

幼児教育心理学科開設以来、14年の長きにわたり熱意あるご指導を受け賜りました故戸田浩暢教授（2021年6月13日逝去）に心から感謝いたします。

## 文献

- 1) 学びと成長しくみデザイン研究所 授業支援 SNS melly. (<https://manabi-labo.co.jp/product/melly/>) (2021年8月15日)
- 2) 文部科学省 ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoin/1414533.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1414533.htm)) (2021年8月15日)
- 3) 文部科学省 改正前後の教職課程の科目等一覧. ([https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/08/09/1415122\\_2\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/08/09/1415122_2_1.pdf)) (2021年8月15日)
- 4) 一般財団法人全国大学実務教育協会 (<https://www.jaucb.gr.jp/>) (2021年8月15日)
- 5) 一般財団法人全国大学実務教育協会 カウンセリング実務士. (<https://www.jaucb.gr.jp/zaigakusei/license/mentalcare.html>) (2021年8月15日)
- 6) 日本生涯学習総合研究所 2020 非認知能力の概念に関する考察Ⅱ—「非認知能力」の要素における関連性の観点から— 改訂版. (<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2019-2.pdf>) (2021年8月15日)
- 7) 大神優子 2019 保育者養成校における心理学教育の役割. 心理学ワールド, 85, 9-12. (<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/04/85-9-12.pdf>) (2021年8月15日)
- 8) 文部科学省 「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」令和元年10月25日. ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm)) (2021年8月15日)
- 9) 文部科学省 いじめ問題を含む子供のSOSに対する文部科学省の取組. (<https://www.mext.go.jp/ijime/index.htm>) (2021年8月15日)
- 10) 文部科学省 令和3年6月23日 児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）. ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1414737\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1414737_00005.htm)) (2021年8月15日)
- 11) 文部科学省 「教職課程コアカリキュラム」（令和3年8月4日教員養成部会決定）. ([https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt\\_kyoikujinzai02-000016931\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210730-mxt_kyoikujinzai02-000016931_5.pdf)) (2021年8月15日)

# 小学校教員養成大学における「学級づくり」 に関する授業の検討

— 一個の学びと協働の学びに着目して —

森 保 尚 美\*

(2021年8月16日 受理)

## Consideration of Classes related to Class Management at a Teacher Training University:

### Focusing on Individual and Collaborative Learning

Naomi MORIYASU\*

This study examined lessons related to class management at an elementary school teacher training university by considering previous studies and lesson practices.

The results are summarized as three main points.

- 1 Managing the class, i.e., class-class, teacher-teacher, subject-subject, as well as relationships with off-campus
- 2 Understanding the advantages of digital and analog and using ICT intentionally.
- 3 Skills as a facilitator that support collaborative discussions

**Keywords:** individual learning 個の学び, collaborative learning 協働の学び, class management 学級づくり

## 1. はじめに

令和3年1月26日に中央教育審議会が答申した「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」においては，これまで，日本の学校が全ての子どもたちに一定水準の教育を保障してきた平等性や，全人教育という面などについて取り組みの成果が認められた．その上で，今日，学校の役割が拡大し，国家として新しい対応を迫られていることに言及し，直面する下の6つの課題を示した．（第Ⅰ部総論2（3）②）

- ・ 子どもの多様化
- ・ 生徒の学習意欲の低下
- ・ 教師の長時間労働による疲弊
- ・ 情報化の加速度的な進展に関する対応の遅れ
- ・ 少子高齢化，人口減少の影響
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により浮き彫りとなった課題

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（以下、令和の答申）は、学習指導要領の改訂前ではなく、改訂後に行われた異例の答申である。これは、現行の学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」を実現する協働的な学習の前提であった対面学習が、自然災害やコロナ感染拡大によって成り立たない状況に直面したことから発せられた学習保証への緊急提言とも捉えられる。

令和の答申では、2020年代を通じて「令和の日本型学校教育」を実現するための姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」とし、答申の第Ⅰ部の総論では改革の方向性を、第Ⅱ部では幼児教育、義務教育、高等学校教育、特別支援教育、ICT教育、環境整備など、教育をとりまく幅広い視点から論を展開している。

「個別最適な学び」は、答申において「ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、『個に応じた指導』を学習者視点から整理した概念」と説明されており、子どもたちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することを求めている。また、前述したように、「協働的な学び」は、2016（平成28年12月）の中央教育審議会答申以降、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、子ども同士、教職員・地域・先哲との対話などの関わりを通じたアクティヴな学びの例が説明されてきた。令和の答申では、これまで例示してきた教室内での「グループ学習」「ペア学習」「ICT活用」等のような学び合いのイメージに「遠隔学習」を前提とした協働的な学びのイメージや、対面学習と遠隔学習を組み合わせた学びのイメージを含めた授業を推進していることがわかる。

このような現状をふまえ、本稿では、学級経営の経験をもたない大学生に対し、個の学びと協働的な学びに着目して、「学級づくり」に関する授業で何を伝えることが望ましいかについて、先行研究及び授業における学生のワークシートから検討し、要点を見出すことを目的とした。

## 2. 学校マネジメントと学級マネジメント

小学校教諭によって立案された「学級経営案」を読むと、「学級づくり」という言葉がしばしば用いられている。そしてこの概念は、学習指導要領で示すところの「学級経営」や「学習指導」、「生徒指導」さらには、「カリキュラム・マネジメント」までを含めた幅広い取り組みの総体を示している。「学級づくり」という言葉は日々の取り組みを積み上げて創られていくという当事者意識から生まれた包括的な用語であると考えられる。

先に述べた令和の答申では、「令和の日本型学校教育」を実現する方向性の1つに「連携・分担による学校マネジメントを実現する（下線筆者）」視点が挙げられた。マネジメントという概念は平成29年告示の現行学習指導要領から公的に示されている概念である。また、「1990年代から教育課程経営はカリキュラム・マネジメントと称され、さらに近年は危機管理がリスク（またはクライシス）・マネジメントとされ、組織運営が組織マネジメントに改められた」近年の概念である（佐藤，2021，p. 92）。このように学校がマネジメントする範囲はかなり広い。佐藤は、経営者は方針と目標を決定し、マネジャーはその目標達成に向けて諸条件（ヒト・コト・モノ・情報等）をどう効果的に用いるかを決定し実行する役割を担うと区別する。史的には学校の組織にマネジャー役を担う層がなかったために、両者が一元化されていたが、現在では創設された主任制度や主幹教諭にマネジャーの役割が期待されているという（同上，p. 93）。佐藤は、答申で示された「学校マネジメント」を

「校長のリーダーシップの下で、主として主任・主幹層等のミドルリーダーが中心になって、教育目標を最も効果的に達成させるために、PDCAに従って学校内外の諸条件を整備・活用する具体的かつ実働的な営み」と定義した（同上、p. 94）。令和の「学校マネジメント」は、授業をはじめとする教育活動の弾力的運用や、単元や指導計画の弾力的運用を推奨し、創意工夫を活かした学校における裁量を拡大するものと捉えられる。

しかし、このような学校マネジメントは、学校全体の動きを、ある程度俯瞰できて行える営みであり、新卒者にすぐに求められるものではない。卒業後に初めての学級担任となる大学生に伝えるべきマネジメントは何かといえば、「学級マネジメント」であろう。それは例えば、自分の学級×他の学級、自分×他の教職員、教科×教科、学校×SNS情報のマネジメント等であると考えている。

大学生はキャリア教育の一環として、「ホウレンソウ」すなわち「報告・連絡・相談」の重要性を教示される。新規採用教員は、授業が始まっても学級に戻ってきていない子どもがいる時、校外で落とし物をした時、算数の授業進度が隣のクラスより著しく遅くなってしまった時、国語で学んだ漢字が定着しない時など、一つひとつの問題に対して、学校という枠組みで定められたルールに準じたり、他の先生が編み出した方策から学んだり、本を読んだりしながら成長していく。しかし、個別の問題に、ただ対応しているだけでは根本的な解決にはならない。例えば、「学級に子どもたちが集まるような」「校外で落とし物をしないような」「授業進度が調整できるような」「教科と教科が相乗効果を生むような」学級のしくみ（約束、役割、段取り等）を構築できるように、「学級づくり」に資する学修をすることが大切である。ここではこれを「学級マネジメント」と示す。それは学校内に閉じられたものだけではなく、例えば新任教員の方が社会人よりも詳しいであろう分野で、「勤務校に有効な新しいつながりをもたらす」学外とのマネジメントができれば理想的である。インスタグラムやツイッター等を通して就職する前から、日本や世界の「#小学校の先生」等とコミュニティを形成している学生の話を知っていると、学生が若手教員となって小学校が保有する人材バンクを豊かにできる可能性を感じることがある。

佐藤による学校マネジメントの定義の一部を援用すれば、学級マネジメントとは、「学級目標を最も効果的に達成させるために、学級内外の諸条件を調整する、具体的かつ実働的な営み」と定義できるであろう。

### 3. 個の学びと協働の学び

本項では、令和の答申が示した「個別最適な学び」や「協働的な学び」というキーワードと切り分けて、単なる単数形態での学びを「個の学び」、2名以上の複数形態で行う学びを「協働の学び」と示して論じていきたい。

#### （1）先行研究（個の学び、協働の学び）

天笠（2021）は、「21世紀を生きる全ての子供に対して、自らの生涯にわたって必要な資質・能力を獲得する学びの機会を保障する」ことが、令和の日本型学校教育のコンセプトであると述べ、そのための学びの在り方として示されているのが「個別最適な学び」であると説明する（p. 52）。令和の答申では「個別最適な学び」は学習者視点から整理した概念であり、教師視点から整理した概念は「個に応じた指導」とであると説明されている。ここでの「個に応じた指導」は、教師が、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法や学習時間等を提供する「指導の個



別化」だけでなく、子ども一人一人が、自分の興味・関心に応じた活動や課題に取り組む機会を提供したり、設定したりするような「学習の個性化」も含まれている。

天笠によれば、「個別最適な学び」というフレーズには、「個人差に応じた指導」という過去の実践の検証をもとにした審議の経過があり、その源には「ゆとりと充実」や学校裁量の時間などを掲げた1977（昭和52）年告示の学習指導要領のもとで編められた指導書「小学校教育課程一般指導資料Ⅲ－個人差に応じる学習指導事例集－」があるという。令和の答申にも記されているように、そもそも日本の学校教育は、1890（明治23）年前後にカリキュラム内容が体系化されたところから、共同体としての性格を強くもち、等級制から同一年齢で編成される学級制へ変化し、一般化した歴史をもつ（濱名，1983，p. 150）。「小学校教育課程一般指導資料Ⅲ－個人差に応じる学習指導事例集－」は、日本の学校教育課程行政に転機をもたらし、個への着目を推進した。そして「個に応じた指導」という文言は、1989（平成元年）の学習指導要領総則の配慮事項に取り上げられ、以後引き継がれていった（天笠，2021，p. 55）。

令和の答申では、「個別最適な学び」は、個人がそれぞれに伸長することを目指すものではなく、協働的な学びとのつながりをもたせ、両者の一体的な充実を目指している。このことを教師サイドから受けとめれば、時刻が固定されない「個に応じた指導」と、時間割に位置づく「協働的な学びを実現する授業」の双方をマネジメントする力量が求められていると言い換えることができる。

複数形態で行う協働の学びが有意に機能するために、どのような教師の働きかけや指導が必要であるかについては校種を超えて膨大な先行研究がある。中・高等学校での教育実習生の授業における小集団学習の場面を分析し、実習指導の示唆を示した先行研究では、以下の点に重点をおいた支援が大切であるとしている（井上，2017，p. 63）。

- 1）小集団学習を位置づける目的を明確にし、個人の思考の場面も適切に確保すること
- 2）小集団学習での目標を生徒に明確に示すこと
- 3）小集団学習と個人あるいはクラス全体での学習との関連性を把握すること
- 4）小集団学習と学習評価との関わりに注意を払うこと

この研究では、グループ毎に学習をする前に、クラス全体で小集団学習の目的や、クラスの学習目標と小集団学習との関わりを共有することが重要であるとされるが、実習生にはこの点が不十分であり、指導支援が必要だと述べられている。注目すべきは、個々の考えを交流する場を活性化し協働の学びを深めるために、集団に対する共通認識と一斉指示というリードが必要である点である。

また、江川（2010）は、小学校第3学年と第6学年の小集団学習で小集団内で国語の読解が苦手な児童と、読解の得意な児童のグループを組んで小集団学習の方法に関する研究を行った。まず、教師の発問に対して個で考える時間を確保した後、グループ全員が発問の回答を説明できるよう、グループ内の友達の説明を模倣する学習方法を適用したクラスと、適用しなかったクラスと比較し、対象児童の読解力テスト、質問紙調査、統計処理等で検証した。その結果、読解の得意な児童の回答を模倣して説明する学習方法を適用したクラスの読解の苦手な児童の方が、学習への動機づけが高まり、読解力も伸びていたことがわかった。江川は、構成員が3～4人のとき最も学習の効果があつたという先行研究と、協同学習における取り組みの初期には3人集団が良いと主張している研究、得

意見は自分の考えを苦手児に詳細に分かりやすく説明するとき、自分の知識を再構成したり再定式化したりするので得意児にとっても利益があると主張している研究<sup>1)</sup>などを根拠に、学習形態及び学習環境を構成して、学級担任と協働的に研究・調査している。江川の研究結果から見てくることは、教師の発問に一人では答えられない児童には、個が伸びるために他者の存在が必須であり、方法としての模倣が有効だったと推測できることである。「個別最適な学び」とは、このように個々の児童にとって最適な学び方を示した、巧みな表現であると言える。しかし、以上のケースも対面学習の事例であるため、遠隔学習における個別最適な学びへ適用すべく、ICT活用の授業研究が急速に進められている。

## (2) 先行研究 (ICT 活用モデル)

2020年度と2021年度に遠隔学習を余儀なくされた大学生が、令和の答申で述べられた「ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、子供たちの資質・能力を育成する」ことは、ビデオ会議による学修やオンデマンド学修の功罪を体験的に把握している点で価値がある。しかし、自宅で最適の学びができるよう子どもをエスコートすることは、対面授業とは異なるハードルがある。やってみせることが、遠隔かつ平面でしかできないことや、目と目を合わせたり、身体に触れたりできないからである。そのような中でも、GIGAスクール構想の前倒しで、一人一台のタブレットが整備された小学校の授業デザインモデルや実践課題には学ぶべき成果がある。原(2021)が校長を務める東京都豊島区立椎名町小学校では、文部科学省のGIGAスクール構想<sup>2)</sup>に向けて、デジタルとアナログの特性を理解し、双方の融合を工夫した授業デザインを推進している。学校ではデジタルとアナログの特性を理解した上で、意図的・計画的にICTの活用場面を設定し、授業デザインを行うことを提唱している。

図1は、一斉学習と個別学習と協働学習を授業過程に添って整理した授業デザイン「ICT活用モデル」である。教師は図1の番号を組み合わせることで学習活動を構想する。また図2は椎名町小学校資料(p.102)から筆者がデジタル教材とアナログ教材のメリットを図にしたものである。

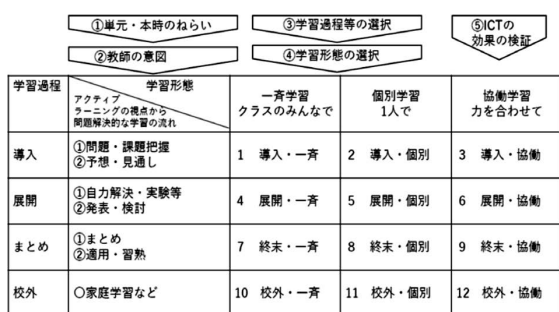


図1 椎名町小学校授業デザイン「ICT活用モデル」

デジタル教材とアナログ教材のメリット	
デジタル教材	ネット接続による双方向学習 写真・動画の記録・保存・再生 多種多様な情報の送受信・共有 時間的・場所的・物理的制約の削減 デジタルデータの複製・加工・統合などの簡易性 シミュレーションや高度データ処理 デジタル教科書・プログラミング教材等のソフトの活用
アナログ教材	直接体験による物理的・感覚的な学習の充実 資料の常時提示による意識づけの効果 板書や拡大年表など学習過程や時系列の把握 ICT環境に左右されない利便性・簡易性

図2 デジタル教材とアナログ教材のメリット

椎名町小学校の研究のキーワードは、「デジタルとアナログの特性を理解した意図的・計画的な授業デザイン」と言える。教科の特性とねらいをふまえることは従前どおりである。総合的な学習の具体的事例として、一人一人が学習したいことを同時に入力して表示するソフトを使用した導入や(図1の3)、学習したことを家族や地域にプレゼンテーションソフトを使って発信する個別の展開



(図1の5)、臨時休業中に全学年をオンラインでつなぎ、健康観察や自主学習の振り返りを行う家庭学習などが示された(図1の10)(原, 2021)。

### (3) 授業「学級づくりの理論と実践」

本授業は、広島女学院大学の4年前期に15コマで構成された選択授業である。第6回テーマ「話し合いの仕方」第8回「合意形成と意志決定」、第10回「係決め演習」第11回「お楽しみ会の企画演習」が本稿に関連している。ここでは第6回授業の振り返りシートを取り上げて考察する。

#### 【授業の目的】

小学校における学級づくりの実践に必要な指導方法を学ぶ。

#### 【第6回授業テーマ：話し合い活動の進め方】

課題：学習指導に「ペアトーク」「グループ学習」を取り入れることは当たり前になってきている。

学習を深める対話にならず、話し合いが形骸化する原因はなにか。下の点について考えよう。

「何を話し合うのか」

「話し合った内容をどうするのか」

※意見を全部集めるのか、1つ選択するのか、1つに集約するのか等。

「どのように話すのか」

「良好な人間関係につながる話し合いの態度」

学生のふりかえりワークシート：「初めて知ったこと、学んだこと」(下線筆者・要約なし)

- ・話し合う内容を伝えるだけでなく、話し合い方、発表の仕方、聞き方などの細かな面の児童の認識が話し合いの活性化を左右することを学んだ。
- ・じゃんけんなど、運で意見を決めることにならないように、話し合いの過程を工夫する必要があると思いました。
- ・教師は、話し合いをどの段階まで行うのかをあらかじめ考えておくことで、児童もそれに応じた話し合いができ、見通しがもてると思った。順番に発表する話し方やフリートークにも長所や短所があるので、長所や短所を活かして取り入れることが大切だと思った。
- ・深い学びのためには他者との学び合いが必要で、人間関係づくりが関わっていることを学びました。話し合いや発表のマナーがよいクラスであれば意見交流が盛んになり、学習も深くなると考えました。
- ・話し合い活動を組む時には、教師が方針をもち、目的を共有しておくことが大切だと学びました。また、話す力を鍛えるために行ったゲームを教師になったら取り入れてみたいです。
- ・話し合うためには、話し合う力が必要で、それを育てることも教師の役目だと学んだ。

## 4 考察—先行研究と授業実践から—

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を、1日の流れで行う教師の具体的な行為として捉え直した時、対面学習では授業中に行う机間指導や授業外に行うカウンセリングなどの個別指導と個が意思決定できる場の創出が「個別最適な学び」に関連する。一方で、集団に対する指示や発問、子ども同士の学びあいの設定、学級づくりのためのガイダンスは「協働的な学び」に関連する。これら2タイプの行為は、1単位時間のなかでも行き交い、1日の流れのなかでは何度も並行したり重複したりして行われる。その姿は、個への働きかけと集団への働きかけの一体化が図ら

れた姿であると言ひ換えられる。しかし、先行研究が追究してきたように、個に応じた指導や、協働的な学びの実現には、グループ構成、話し合いのあり方、グループ机間指導のあり方などの環境構成や、授業中の指示・発問、教具、教材、それを支える教材研究など、広範囲な努力と工夫が必要である。これら全ての情報を大学生に伝えきことは現実的に不可能である。しかし、現場経験のない学生に共通する課題の傾向に着目して大学での授業検討をすることは効果的であろう。

井上らの行った研究と同様に、学生のふりかえりシートからは、話し合いの目標や位置づけを教師が意識して児童に伝えることについて、これまであまり認識されていなかったことがわかる（下線部参照）。また、話し合いのプロセスを創る支援に注意を払い、プロセスを評価することについて伝えることも重要であることがわかった。話し合いを設定した教師の意図は隠されるべきではなく、押し付けるべきでなく、明確に示され、主体性を喚起させることが大切であろう。

江川の研究で発表されたのは、グループ内児童の模倣を行って全員が口頭説明するという枠組みのなかで、個の読解力が伸長された事例であった。小学校ではこれまでも、児童がミニ先生になって困っている児童に説明する取り組みが行われてきたが、ミニ先生の説明がわかりやすいかどうかは千差万別である。しかし、理解の道筋を児童が言葉で説明し、それを模倣することをグループ課題とすることで、対話的な学びの前提が整えられ、協働的な学びの態度を育成することもできると考える。

椎名町小学校の ICT 活用モデルは、教師が授業づくりや教材研究を行う上で校種を超えて活用できる利便性の高い事例であった。一方で、2020年からオンデマンド学習やビデオ会議による双方向通信、両者を組み合わせた授業を余儀なくされた大学生の様相をふりかえると、デジタルの特性に馴染む学生と馴染まない学生の学習動機や成績に差がみられたことが想起される。批判を恐れずに述べれば、自学自習できる学生の成績には遠隔学習の弊害はでなかったが、人と関わって受講することを好む学生の学習意欲は低下した。また、起床習慣やコミュニケーション能力に課題をもつ学生の救済として遠隔学習形態が功を奏した側面もあれば、生活リズムをくずす要因にもなった。そうした経験と照らしあわせて導かれる示唆は、授業デザインの計画や実行にあたっては、各科目の学びを支える、児童や学生の生活実態や、眼精疲労及び腰痛などの身体的配慮、人と関わって学びたい気持ち、教師が与える指導のインパクトなど多角的な視点で構成・実施されるべきだということである。

筆者の授業では、協働的な学びを支える「話し合い活動の進め方」に焦点をあてた。学生たちはこれまでに話し合いを多く体験してきているが、話し合いを促す役になった経験を多くもつ者は一部であり、ファシリテーターやインストラクター等の役割について専門的に学んだ経験をもつものはさらに少なかった。また、受講者の67%が初めて知ったこと、学んだこととして話し合いの手順や過程に対する気づきを取りあげていた。各科目の指導法や演習で、引き続き学修計画に位置付けていく必要があると考える。

以上の検討から、教員養成大学における小学校の学級づくりに関する授業の要点を下の3点に整理する。

- ①学級経営が未経験段階の学生に対して、学級マネジメントの重要性に気付く資料や、学級間、教員間、教科間、学外とのつながりに関する連携事例を知るような学習内容を提供する。
- ②デジタルとアナログの学習の長所と短所への理解を深め、教材研究を行うとともに学習者の生

活や心情に配慮した意図的な ICT 活用の重要性を伝える。

- ③協働的な学びを支える「話し合い」をファシリテートし、個々の発言の促しや整理について知識と方法を提供し、演習等によって技能を習得させる。

## 5 おわりに

個別最適な学びと協働的な学びについての最も理想的な理解は、学生自身が個別最適な学びと協働的な学びを多様に体験し、そのよさを実感することであろう。大学教員の研修や授業改善も進めていくが、学生自身にも様々な制限を乗り越えて主体的に個別最適な学びを見出し、協働的に学んで欲しいと願っている。

## 【注】

1) 江川 (2010) のグループ構成は、下の 3 つの先行研究を参考にして人数や性別を設定している。

Lou, Y., Abrami, P., Poulsen, C., Chambers, B., & d'Apollonia, S. (1996). Within-class grouping: A meta-analysis. *Review of Educational Research*, 66, 434-458

David W. Johnson., Roger T. Johnson., & Edythe-Johnson Holubec. (1984). *Circles of Learning: Cooperation in Classroom*. Association for Supervision & Curriculum (杉江修治・石田裕久・伊藤康児・伊藤篤訳 (1998) 学習の輪—アメリカの協同学習入門—二瓶社)

Strough, J., Swenson, L., & Cheng, S. (2001). Friendship, gender and preadolescents' representations of peer cooperation. *Merill Palmer Quarterly*, 47, 475-500

## 2) GIGA スクール構想

令和元年度まで、地方財政措置に委ねていた児童 3 人に 1 台という端末環境は、子供たち一人ひとりに個別最適化され、令和元年度補正予算案において、児童生徒 1 人に 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛りこまれた。文部科学省は GIGA スクール推進本部を設置し、下の 2 点を GIGA スクール構想の軸としている。

- 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する
- これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

## 【引用・参考文献】

- ・ 天笠茂 (2021) 「個別最適な学びと協働的な学び—個別最適な学びからのアプローチ」『臨時増刊 No53 変革の時代の学校教育を展望する—「令和の日本型教育」をどのように進めるか—』一般財団法人教育調査研究所 pp. 52-57
- ・ 石田浩子 (2021) 「令和 3 年度 2 年 2 組学級経営案」(広島大学附属東雲小学校)
- ・ 井上芳文他 (2017) 「教育実習における効果的な指導のあり方に関する研究 (2)—教育実習生の授業における小集団学習の場面の分析を通して—」広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要第 45 号, pp54-63.
- ・ 江川克弘 (2010) 「小集団学習で学習苦手児が得意児を模倣することの有効性の検討—小学校国語科の説明文読解の授業を通して—」教授学習心理学研究 6 (1), pp. 13-28
- ・ 片岡徳雄編著 (1981) 「全員参加の学級づくりハンドブック」黎明書房
- ・ 佐藤晴雄 (2021) 「学校マネジメント実現の視点」『臨時増刊 No53 変革の時代の学校教育を展望する—「令和の日本型教育」をどのように進めるか—』一般財団法人教育調査研究所
- ・ 中央教育審議会 (2021) 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申) 令和 3 年 1 月 26 日」<https://www.mext.go.jp/content/>

20210126-mxt\_syoto02-000012321\_2-4.pdf

- ・中央教育審議会（2016）「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)
- ・濱名陽子（1983）「わが国における「学級制」の成立と学級の実態の変化に関する研究」教育社会学研究第38集 pp. 146-267.
- ・原香織（2021）「自分・ふるさと・世界をつなぎ，未来を切り拓く児童の育成～GIGA スクール構想における授業デザイン「ICT 活用モデル」を通して～」『臨時増刊 No53変革の時代の学校教育を展望する―「令和の日本型教育」をどのように進めるか―』一般財団法人教育調査研究所 pp. 102-103.
- ・ハリー・ウォン／ローズマリー・ウォン／稲垣みどり訳（2017）「世界最高の学級経営―成果を上げる教師になるために」東洋館出版社
- ・森保尚美（2021）「話し合いの仕方」『学級づくりの理論と実践』広島女学院大学，第6回授業学習プリント

## 不朽のデザイン市松模様 —NHKBS プレミアム「美の壺」より—

三 梲 正 典\*

(2021年8月16日 受理)

### Timeless Design Checkered Pattern —From NHK BS Premium “Beauty Pot”—

Masanori MIMASU\*

This manuscript describes the charm of the checkered pattern inherent in the expression while looking back on the origin of the production, “Japanese Modern”.

**Keywords:** Checkered Pattern 市松模様, Japanese Modern ジャパニーズモダン, Japanese Art 日本美術

#### はじめに

2020年11月27日（金）午後7時30分放送、NHKBS プレミアム「美の壺」で2016年に制作した襖絵「市松桜」が紹介された。番組のテーマは「不朽のデザイン市松模様」。番組ホームページではテーマについて以下のように紹介されていた。

「鬼滅の刃」で大人気の「市松模様」。縄文土器・埴輪・着物・切子・やきもの・庭・ふすまなど、あらゆるものを美しく飾ってきた、市松模様の知られざる魅力に迫る！スーツから靴下まで、市松模様を毎日身につける狂言師・茂山逸平さん。愛用歴20年の市松アイテムを大公開！縄文土器や埴輪にも！写楽も描いた「市松」の名の由来の人物とは？！漆黒市松のスタイリッシュな江戸切子に、3500の四角がうごめく市松模様の九谷焼。現代に生きる、市松模様ならではの美。京都・東福寺にある重森三令の市松模様の庭。その意図を孫が読み解く！古民家に輝く、市松のふすま絵！

番組は1. 交互～繰り返す四角の妙～2. 工芸～平面を超えて～3. 見立て～整然から解き放つ～の3部から構成されていて、そのぞれの視点から市松模様の持つ魅力が紹介されていた。筆者の作品はその3つ目の視点見立て～整然から解き放つ～の場面で京都東福寺の重森三玲氏が手がけた庭と共に紹介された。制作から数年経過した作品をあらためて鑑賞の視点から紹介して頂いたが、制作過程のインタビューを通してまた新たな市松模様の持つ不思議な世界を再認識するきっかけにもなった。

---

\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

本稿では、自分の制作の原点を振り帰りながら、「不朽のデザイン市松模様」のテーマの中で新たに気づかされた自分の表現に内在する市松模様の魅力を辿ることとした。

### ジャパニーズモダン

襖や屏風、掛け軸の制作を行い始めて今日まで約10年、制作の土台となっているテーマが「ジャパニーズ・モダン」である。「モダンアート」という言葉は美術史において「主として20世紀になってから第二次大戦前までに生まれたシュールレアリスム・抽象主義など新傾向の美術」と表記されるが、ジャパニーズ・モダンという言葉については、美術史上には聞き慣れない言葉で、デザインの礎として第二次世界大戦後に渡辺力・柳宗理・長大作・水之江忠臣らと共に家具デザイナーの剣持勇氏が「ジャパニーズ・モダン」という用語を最初に用いたと言われる。鹿野政直は「ジャパニーズ・モダン 剣持勇とその世界」で剣持が提唱した「ジャパニーズ・モダン」の構成美について以下の様に述べている。

彼は、スウェーデン工芸に「機械と手、人間と自然、理知と感情、それまでどうしても融和しなかった矛盾するもの」の「見事な一致」，「何よりも人間的なその美しさ」，「異国趣味とか、骨董趣味とか、貴重珍奇とかそんなものではなく土地に根ざしたほんもの」の造出を見，その上に立って，「かつては日本では，通常の視覚言語であったシンプリシティの美が今日では世界を通じての美の言葉となった」としつつ，そこに根ざす造形美すなわち「ジャパニーズ・モダン・デザイン」を主張した<sup>1)</sup>。

また剣持は「ジャパニーズ・モダンとは日本のグッドデザインなのだ」と提唱し，戦後欧米を中心とした新しい生活様式が流入する中，日本人の生活用具の中のグッドデザインを海外に輸出する試みも行っていた。剣持はこの「ジャパニーズ・モダン」は北欧のモダンデザインと並んで期待される日本デザインであることに気づき，家具からインテリア，建築分野へと展開させて行っただけである。森は剣持の追い求めた「ジャパニーズ・モダン」を「日本的なるもの」として以下のように述べている。

剣持は単に伝統を復興させたり，引用しようとしたものではありません。あくまで，モダン・デザインを実践するなかで，日本独自の味わいが表われ評価されることを期待し，求めていました。経済大国となった日本は精神的なよりどころを求め始めます。建築もこの頃には現代的な材料で日本を意識することが多くなり，こうした難題に剣持の手腕はうってつけでした<sup>2)</sup>。

その「ジャパニーズ・モダン」をテーマとして今日まで作品制作続けてきた。制作するにあたって大きなきっかけになったのには，3つの出会いがある。その一つが，2011年に放映された美術史家で明治学院大学教授山下裕二氏解説のNHK番組「大胆不適な水墨画」。もう一つは2005年から京都のギャラリー白川で開催されている「現代アートうちわ展」。そして2011年に観た作家重森三玲の作品である。いずれの出会いにも伝統的な「日本美術」が根幹にあり，強烈なインパクトと共に制作意欲を掻き立てられたのである。



## 日本美術

### (1) 日本美術と山下裕二

日本における美術は、原始から現代に至る各時代に諸外国との交流によって流入した美術とそれまでに熟成した日本美術との融合のなかで様々な多彩で個性的な展開を見せてきたと考える。1997に発行された「日本美術館」では、先史時代から現在までのそれぞれの時代の美術作品を取り上げているが、その冒頭に日本の美術の作品について以下の様に述べている。

われわれは、この日本列島において、長年にわたってさまざまな「文化」を育んできました。これらはすべて、日本列島の中で悠久の時を過ごしてきた日本人の営みであり、工夫の結果であり、生活の知恵であるわけです。それらの中で、現在に至るまで「目に見える形」として残されているものに、「美術」の「作品」がある<sup>3)</sup>。

この「美術」の「作品」が大枠で捉えた「日本美術」と考えられる。その「日本美術」のイメージは、「現代美術」をジャンルとして制作してきた自分にとっては、馴染みの薄い世界で幾分古めかしいイメージがあった。そのイメージを一変させられたのがNHKの番組「大胆不敵の水墨画」。そこで中心的な存在で解説を担当していた美術史家で明治学院大学教授山下裕二氏の魅力的な言葉を駆使して解説された「日本美術」である。その魅力を引き出してくれる山下の言葉の数々を通して見る作品は、全く新しい感覚の「日本美術」であった。

その番組の基になっているであろう「別冊太陽水墨画発見」（図1）の見出しには「目からウロコ的水墨画発見！」を記され、続いて水墨画について以下の様に述べられている。

雪舟だろうが等伯だろうが牧谿だろうが、自分の眼で見て、つまらなければ、切り捨てればいい。「伝統」という美名で古ものをなんでも奉るの、はやめたほうがいい。でも、いま、ここに何百年も前に描かれた水墨画がたしかに存在しているのです。そんな、私がこれまでにみてきた水墨画を、多くの人がみたこともない、という現実があるわけです。水墨画だけでなく、これは日本美術全体の問題でしょうが、とにかく見たこともないのに、何となく水墨画は「日本のこころ」だなんて思われているのは、不幸なことです<sup>4)</sup>。

見たこともない水墨画の中で最も衝撃を受けたのが「白隠」。「大胆不敵の水墨画」の番組で白隠を山下氏は以下のように紹介していた。

白隠の人生を振り返ってみますと私は本当にこの人は人間的にも凄いスケールを持った素晴らしい人物で最も歴史上 尊敬する人物と言って良いかもしれません<sup>5)</sup>。

また、白隠の描く禅画を「空前絶後のど迫力」と題し、「描かれる人物は、達磨でも布袋でも、あるいは大燈国師といった祖師でも



図1 平凡社「水墨画発見」

そのほとんどは白隠の分身。白隠が生み出したキャラクター、アイコンが、雄弁に語りかけてくる」と全容に触れ、作品「達磨像」の解説文では、「絵のツボ」「即興かつパフォーマンス的に仕上げた」「墨が散るほどに速い筆の動きは、ほとんどアクション・ペインティング。20世紀アメリカの抽象表現主義の画家も顔負けの一作です」と表記している。

山下の文章や言葉には人を引き付ける魅力や価値を見出す力がたくさん詰まっている。作家は、まるで身近にいた隣人のように親近感をもって紹介し、作品は現代絵画を見ているように普段使っている現代用語を巧みに混ぜながら解説している。日本美術を歴史上の「伝統」と感じていた私の価値観は山下によって「斬新」なものに変わり、ワクワクとドキドキ感を持って改めて日本美術という扉の前に立つ機会を得た。

その後は、水先案内人とも言える山下によって新たな日本美術の魅力に出会うこととなった。

## (2) 日本美術の魅力

1996年、山下は前衛芸術家の赤瀬川原平氏と日本美術応援団を結成し、「日経アート」誌上で雪舟、等伯から、縄文土器や根来塗の器まで日本美術を幅広く応援。教養主義や美術史にとらわれない美術鑑賞法を提示する活動をスタートさせていた。当時の美術を取り巻く状況は、世界各地で国際美術展（ビエンナーレ・トリエンナーレ）が開催され、新しい芸術が競うように紹介されていた。日本における美術の状況も、1989年日本で初めて「現代美術」の銘打つ公立美術館が広島で開館し、その後様々な美術館で外国の現代美術作家の企画展が開催され注目を集めていた。私も現代美術作家のコンセプチュアルな表現方法に夢中になり、多くの刺激を受けながら作品を制作していたことを思い出す。そのような状況の中、誰もが見覚えのある日本美術の作品を赤瀬川氏と共に学問的な美術史の価値観と独特の審美眼で対談していく内容は、評価されている作品の後追いだけではなく、「雪舟が神棚から降りてくる」「北斎よ、その肺活量の大きさは何なんだ」「焼きたてのクッキーとの対話 縄文、恐るべし」などのタイトルからも見て分かるように、新しいユニークな解釈を加えることによって、次第に日本美術の魅力を引き出していつている。そして日本各地の美術館で日本美術の作品や作家の企画展が頻繁に開催される「日本美術ブーム」という現象を起こしていったのである。またその企画展は「北斎」「狩野派」「琳派」「浮世絵」「国宝」など既知のテーマだけでなく「伊藤若冲」「白隠」「曾我蕭白」「長沢廬雪」「海北友松」など今まであまり耳にしたことのない作家展のテーマにおいても多くの来館者があった。このことは日本美術における新しい現象として「日本美術ブーム」の追い風になり、そのブームは今なお続いているのである。

日本美術の魅力は、外国人コレクターの審美眼からも伺うことができる。その代表的な一人がアメリカ人のジョー・D・プライス氏（1929～）山下は彼との対話をまとめた本「若冲になったアメリカ人」の中で彼について以下のように述べている。

18世紀半ばの京都。すさまじい才能をもった画家たちが、京の街中の、歩いて行き来できるようなところに住んでいた。パリやニューヨークに喩えるのは癪だが、これほどの才能がぎゅっと凝縮された場所に集まったことは、歴史上、そうあることではない。あるいは、16世紀のフィレンツェや、12世紀の杭州に喩えたほうがいいか……。だがそんな画家たちのすごさを、とうの日本人は長らく忘却してきた。若冲ひとりとっても、20年前には「ジャクチュウ」と読める人など、

ほとんどいなかった。情けない「近代史」や「戦後史」を象徴する事実である。1953年、スポーツカーを買うつもりのお金を若冲に変えた若きプライスさんは、日本人が忘却していた美観を独力で理解し、その後、コレクションに邁進した。江戸時代絵画のすばらしさを、繰り返し、控えめに、しかし熱く語り、研究者たちを鼓舞してきた<sup>6)</sup>。

「日本人が忘却していた美観」への理解は、プライス氏にだけではない。俵屋宗達を再発見し、ワシントンにフリーア美術館を設立したチャールズ・フリーア。進駐軍の美術顧問として来日後、1948年にシアトル美術館、1954年にクリーブランド美術館のキュレーターとなったシャーマン・リー。より深く作品の背景まで理解しようと日本美術史を研究したメアリー・グリッグス・パークなどの理解ある富裕層によって「国内に留まっていたら間違いなく国宝に指定されていただろう作品」がコレクションされアメリカへと渡った。1984年に東京のサントリー美術館で「異色の江戸絵画―アメリカ・プライスコレクション」1985年東京国立博物館において「パークコレクション日本美術展」などの里帰り展が開催されたが、これら海外からの展示も忘却していた日本美術の価値を見直す機会となり「日本美術ブーム」の一端を担ったのではないと思われる。2019年アメリカ人による日本美術のコレクションを特集した番組「江戸アバンギャルド」が2回に渡って放送された。番組は、何百年も前に江戸時代の絵師が描いた絵がとても斬新でアバンギャルドに見えると捉えるアメリカ人の映画監督リンダ・ホークランド氏が「何故日本の美術がアメリカ人の心を捉えたのか」という疑問に向かうアクションが中心の構成になっている。その疑問に山下は以下のように答えている。

西洋の美術というのは基本的に人間の目から見た自然です。だけど日本の絵の考え方は人間は自然の一部であって神の目で見たと描こうとしています。だからパースペクティブな遠近法とは違う描き方をしているわけです。そもそも人間の目で見たとそのまま描く意識がないわけです。それが当たり前だったのです。そこが大きな前提の違いです。

なんか描く必要はない。そういうことかもしれない。逆に言えば、当の日本人がちょっと明治以降卑屈になっていた歴史があるから、西洋から美術がどっと入ってきて「絵とはこういうものだ。」ってそれにつき従わないといけないみたいにして150年来た歴史があります。それで「日本の美術は遅れたものだ。」というみたいに当の日本人が思い込んでしまった。そんな中アメリカのコレクター達が日本にやって来て、日本人が評価していないものを自分の目で見えて買っている。

日本のマーケットはこれまでの格式に囚われていて、この画家の作品だから高価など、この画家はあまりネームバリューがないから安価みたいな。だけどそうではなく、作品そのもののクオリティーから判断すれば、「こんな良いものがこんなに安価だ」と思って買ったものがたくさんあるんだと思うのです<sup>7)</sup>。

ニューヨークメトロポリタン美術館をはじめ、アメリカ各地で10万点とも言われる日本美術のコレクション、西洋のコレクター達は深い知識はなかったが自分の目を頼りに見事な作品を収集してきたのである。そこには日本人が忘却していた美観や価値観など日本美術の魅力がたくさん詰まっているのである。それらを山下は発掘して独自の表現によって分かりやすく、ユーモアもふんだんに取り入れて現代に届けてくれているのである。

### (3) 現代アートうちわ展



図2 現代アートうちわ作品

2022年7月第16回現代アートうちわ展が京都のギャラリー白川で開催された。私も出品作家として第1回目から参加させて頂いている企画展。出品作家は約30名。地元作家から世界的に活躍している松谷武判氏など多彩である。作品の多くは、京都で古くから手すき和紙と竹で作られている手作り団扇がベースとなっている。「この伝統的な団扇にどのような絵を描いたらいいのか？」という試行錯誤の繰り返しだが、今日「ジャパニーズ・モダン」を題材に制作する大きなきっかけとなった。その基本となった形は、「市松模様」。江戸時代中期に佐野川市松という歌舞伎役者が舞台でこの模様の袴を着ていたことで大流行した格子の色違いのチェック柄。2021年に開催されたの東京オリンピック・パラリンピックにも用いられている。2010年、白い団扇に市松模様を切り抜いて作品（図2）にしたところ、「現代アートうちわ」という企画タイトルに馴染む不思議な感覚を感じた。その後の現代アートうちわ展には、この市松模様をベースとした作品の色々なバリエーションが展開していくこととなったが、この展開が起点となり、制作は、団扇に限らず、襖や屏風、掛軸など日本の伝統的な表具へと広がっていったのである。

テーマ「ジャパニーズ・モダン」は、ギャラリー白川のオーナー池田真知子氏が提唱している言葉。その定義は、「日本の伝統的なデザイン・素材・材料を用いて再構成された現代美術。ギャラリーの新シリーズ企画として「ジャパニーズ・モダン」という言葉が使われ、2015年、記念すべき第1回作家として「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ 三樹正典展－市松模様を描く－」を開催していただいた。その展覧会パンフレットには、シリーズ誕生について池田は右のように述べている。

現代において「日本の美」を追求していくと、「日本の美」が生き生きと目に映る時代があります。「江戸時代」です。鎖国の中で豊かに「日本の美」が成熟したこの時代に視点を戻し、江戸時代に花開いた「日本の美」を現代に繋いでいくことが新たな「日本の美」への創造へとつながっていくのではないかと。この思いが、同じような視点で「日本の美」を創造していこうとする現代作家の皆さんを紹介する展覧会のシリーズを誕生させることになりました。さらに、この思いを

深めさせたのは、ギャラリー白川が10年間開催してきた「現代アートうちわ展」です。うちわの歴史は古く古墳時代からあるのですが、それは庶民の物ではありませんでした。しかし、江戸時代に入ると、庶民の間で生き生きと「うちわ文化」が花開きます。今まで縦目線で追っていた「うちわ」の歴史を横目線で見渡すと、そこには「うちわ文化」だけでなく、浮世絵や歌舞伎や、大衆文学を生み出した江戸という時代があり、それらは琳派へ、光琳へたどり着きます。「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」、長年温めてきた企画のスタートです<sup>8)</sup>。

#### (4) 市松模様と重森三玲

重森三玲(1896-1975)は、数々の名庭を作成した昭和を代表する名作庭家である。最初日本画家を目指していた彼は、西洋の抽象画に大きな影響を受け、新しい日本画を目指していた。しかしその作品は、当時の画壇では全く評価されず、画家を諦め、京都の地で美術研究家として、生け花やお茶、庭など様々な分野で日本文化の歴史を探究した。大きな転機となったのは、昭和9年、38才。近畿地方を襲った室戸台風により、各地の日本庭園が大きな被害を受け、修復の手がかりすらできない現状を目のあたりにしたことである。その後彼は、自ら日本中の庭を巡り、一つ一つの石の位置まで詳細に測量し、庭の様子を書き写し、3年の歳月をかけて300の庭を調査、測量と共に歴史も調べ「日本庭園史図鑑」としてまとめた。そして昭和14年、43才。本格的なデビュー作品として制作したのが京都東福寺の庭であった。彼の表現は、現在「永遠のモダン」と称される。三玲の孫であり重森三玲庭園美術館館長の重森三明氏は、三玲のモダンについて以下のように述べている。

「永遠のモダン」とは、重森三玲が好んで繰り返した言葉であり、彼の作品を貫通する美意識だ。それは、個展と現代に同じく存在し、ある時代においてのみ好まれ理解されるのではなく、時を越えて輝きつづける完成した美の姿である。(中略)三玲のモダンの基準は、建築やデザインの世界で理解されているようなモダニズム、モダン・デザインとは少し違った視点に立っており、永遠のモダンを内在する作品には、静的でミニマルなものもあれば、動的で躍動的なものもある。つまり、三玲のモダンは、外的な美しさだけではなく、作品の内に秘められた生命力や永遠性を言い表した言葉であるといえよう<sup>9)</sup>。

重森三玲の目指す「永遠のモダン」。彼の作品に初めて出会ったのは、2012年。広島市安佐南区長東西にある「桜下亭」。彼が手がけた全国でも数少ない個人亭の一つ。その庭園の持つ美しさと迫力に圧倒された。その後彼の作品を追うように訪ねたが、最も惹きつけられたのが、東福寺方丈庭園北・西庭(図3)である。何れも市松模様が入り入れられている作品であるが、自然や空間を見事に取り入れた世界は、何時間見ても飽きることのない永遠の心地よさを感じる。三玲の永遠性を三明は「永遠の生命を宿した美」として以下の様に述べている。

名作とよばれるまでに高度に完成した芸術作品には、作家の魂が吹き込まれており、あたかも生き物のような生命感を感じる。永遠のモダンとはこのような生き生きとした作品(人工美)であり、モダンなかたちに刻み込まれた生命は、年月を超えて生きつづけ、永遠性をあrawす<sup>10)</sup>。



日本庭園が持つ抽象化された表現「永遠のモダン」との出会いが、「ジャパニーズ・モダン」をテーマとして今に続く一連の襖絵制作の大きなきっかけとなり、今でも心の基盤として制作の支えとなっているのである<sup>11)</sup>。



図3 重森三玲作 京都「東福寺 方丈庭園」北・西庭

### 不朽のデザイン市松模様

重森三玲に影響を受け、彼の表現する市松模様を取り入れた作品を今回の「美の壺」の番組で紹介して頂く流れとなった。紹介された作品は2点。1点は、呉市蒲刈町の蜜柑を赤や黄色、緑色を和紙の上で重ね、刷毛で金色を施して市松模様で表現した襖絵（図4）と広島県安芸郡海田町の築246年の古民家（旧千葉家）の居間に太陽が昇り、刻々と日差しを強め西へ傾いていく光の移ろいを庭にそびえ立つ樹齢100年の山桜の花びらが舞い込む光景と共に市松模様で描いた襖絵（図5）。



図4 秋（蜜柑）2012



図5 市松桜（春）2016

今回取材インタビューに答えていく中で、無意識に表してきた「市松模様」に新たな気づきも得ることが出来た。以下は、インタビューを通して応えた自らの市松模様観である。

- ・市松模様は遠目で見ると光が反射しているように見える。そういう効果と模様の魅力を表現に重ねた。
- ・市松模様は本当に完成された美で、その美が時間と共に消えていく・無くなっていく経過を市松模様でも表現したい思いで描いた。また画面に残った市松で日の光をより輝かせたい思いも加えている。
- ・日本人の持つ固有の美意識を歴史的な建物の中で味わってもらいたい。
- ・市松模様は自分の感性の中に響く揺るぎない光と時の流れである。

番組の最後のナレーションでは以下のように語られて番組が締めくくられていた。短い言葉ではあるが、長い歴史を秘めた市松模様を今後の夢を乗せてくれている言葉のように感じた。自分もまたそのような作品を作り続けていきたいという思いもまた新たに感じた。

人の心に宿るそれぞれの市松模様。様々な表現を通して輝きや彩を与えてくれる。

## 【引用文献】

- 1) 鹿野政直「椅子と剣持勇の近代」『ジャパニーズ・モダン』国書刊行会 2005 P.13
- 2) 森仁史「ジャパニーズ・モダン 剣持勇とその世界」国書刊行会 2005 P.121
- 3) 青柳正規「日本美術館」小学館 1997 P.2
- 4) 山下裕二「水墨画発見」平凡社 2003 P.5
- 5) 「大胆不敵な水墨画」NHK プレミアム8 2011.2.22放送
- 6) ジョー・D・プライス「若冲になったアメリカ人」小学館 2007 PP.23-24
- 7) 「江戸あばんぎやんど」NHK 2019放送
- 8) 池田真知子「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」パンフレット ギャラリー白川
- 9) 重森三明「シリーズ 京の庭の巨匠たち5 重森三玲Ⅱ 自然の石に永遠の生命と美を贈る」京都通信社 2010 P.5
- 10) 同上書 PP.7-8
- 11) 三桢正典「ジャパニーズ・モダン」レタープレス 2020 PP.1-7

# 学科紀要誌名の変更について

児童教育学科長 森保尚美

この度、学科紀要の誌名を「幼児教育心理学科研究紀要」から「児童教育学科研究紀要」に変更することになりました。

「幼児教育心理学科研究紀要」は、2007年度に新設された幼児教育心理学科の教員によって、学術的研究及び実践的研究を促進することを目的に2015年に創刊され、7年間の歴史を重ねてきました。「幼児教育心理学科研究紀要」に掲載されてきた内容は、心理学、保育学、教育学を始め、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を養成する学科教員の関心に基づく幅広いテーマで構成されています。

2018年4月、広島女学院大学は改組によって新学部・新学科を開設し、幼児教育心理学科は児童教育学科として新しいスタートをきりました。そして、2021年に完成年度を迎えたことから、誌名を学科名にあわせ、「児童教育学科研究紀要」に変更することになりました。しかし、学科教員の幅広い関心に基づくテーマによる学術的研究や実践的研究を促進するという目的はこれまでと変わらず、「幼児教育心理学科研究紀要」が前身であることがわかるよう、「児童教育学科研究紀要」の号数は幼児教育心理学科紀要を引きついで第8号から出発します。

今後とも、児童教育学科をご指導、ご支援くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2021年9月

## 広島女学院大学 児童教育学科研究紀要 第 8 号

2021年9月27日 印刷

2021年9月30日 発行

編 集 者 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科

発 行 者 広島女学院大学人間生活学部

学科長 森保 尚美

印 刷 所 レタープレス株式会社

〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5

Tel (082) 844-7500